

SINKKEN STYLE

新しい暮らしと自分発見。
シンケンスタイル





イントロダクション:

現代のベーシックハウスを求めて	004
シンケンスタイルはライフスタイル	006
シンケンスタイルはエコロジー	008
シンケンスタイルはコミュニケーション	010

シンケンスタイルはライフスタイル: Part1

建物の完成は住まいの始まり。

山田 邸	020
自然に、健康に暮らすための工夫。この家はそれを教えてくれた。	
内藤 邸	030

シンケンスタイルはエコロジー:

環境に開かれたデザイン	040
住まいの心肺機能 — OMソーラーの原理	049
低床暖房は日溜まりの暖かさ	055
時間をデザインする	060

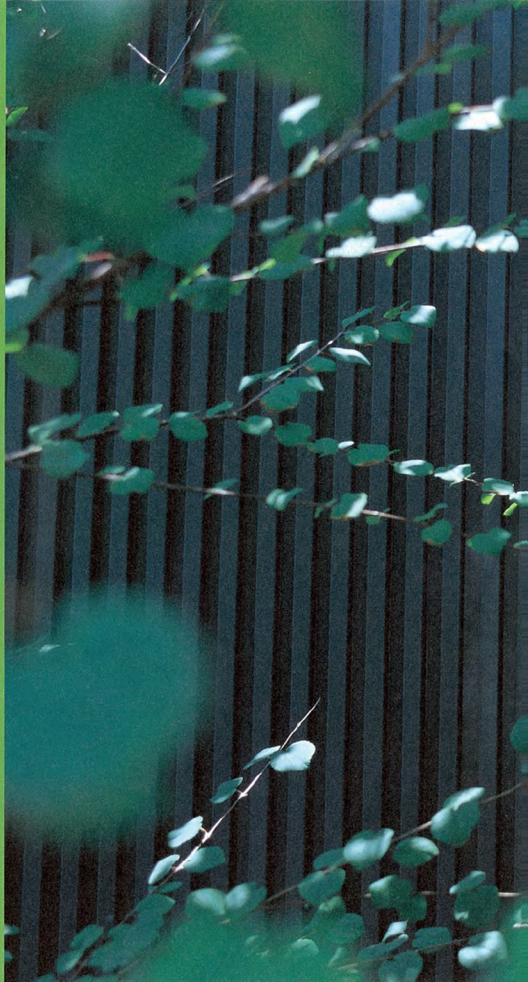
シンケンスタイルはライフスタイル: Part2

新しい暮らしと自分発見。家を建てて、そういうこと。

川村 邸	066
ほしかった家のイメージは「木造校舎」。	
今村 邸	076
シュールな「創造の森」に棲む。	
坂井 邸	086

シンケンスタイルはコミュニケーション:

シンケンスタイルQ&A	104
のびやかなきめの細かさ…… 迫さんの仕事 奥村昭雄	124
迫さんとシンケンデザイン 秋山東一	126
小さいけれど、暖光炯々として 小池一三	128
シンケンデータファイル	130



introduction

自

分の暮らす町のなかに好ましいと思う住宅をいくつあな
なたは発見できるでしょうか。あなたがこれから新しい
住まいをつくるかと考えていて、どんな住まいのイメージ
を思い描いているでしょうか。住まいづくりのスタートはそ
こから始まります。でも、住みたいと思う住宅をほとんど発
見できなくても、あるいは具体的に自分の住まいの像を思い
描けなくても落胆することはありません。けっしてあなたの
せいではないのですから。

今日、新聞、テレビをはじめとして、私たちは住宅のコーマ
ーシャル情報の洪水のなかにいます。流行を追う住宅産業は、
車と同様に住宅をひとつの消費財としてみることを私たちに
長いこと強いてきました。工務店のつくる住宅においてもそ
のことは同様です。そうしたなかで、きわめて短い住宅寿命
と大量廃棄、環境破壊という日本独特の不幸な住宅環境の
なかに私たちは置かれています。住宅に求められる不可欠
の性能とは何か、住まいづくりのどこに「コスト」をかける
べきなのか、日々の暮らしのなかで住まいをど
う維持していくべきなのかといった、基本的な
住宅像、生活像を欠落したまま、今日も多くの
住宅が日本中のどの都市とも同様に、ここ
鹿児島でも建てられ続けています。ですから、
あなたが求める住宅を見つけれなくても、
それは当然なのです。

第2次大戦後の1950年代、物や技術が

現代 ベーシック

きわめて不足していた時代に、日本の伝統的住宅の良さを見出し、最小限の材料ですぐれた木造住宅をつくった建築家にアントニン・レーモンドという人がいます。この建築家のつくった木造住宅に共通していたのは、床から庭へののびやかな連続や深い軒といった日本の民家デザインの積極的解釈、合板張りの生地のままの壁、造り付けの家具などですが、驚くことに給湯器と床下には暖房機も埋め込まれていました。これらは彼が「ベーシックハウス」と名付けた20坪の平屋のローコストな小住宅においても変わることがありませんでした。この建築家の設計した住宅が、今日に至るまで日本の多くの建築家に大きな影響力を与え続けているのは、彼が住宅に求めた最低限の質が、時代を超えた普遍的な質を持っていたからです。

レーモンドは彼に師事する当時の日本の若い建築家たちに、住まいづくりの5つの原則(シンプル)を求めたといえます。それは自然(ナチュラル)、単純(シンプル)、直裁(ダイレクト)、正直(オネスト)、経済(エコノミー)の5つでした。この5つの原則は住まいづくりの基本がどこにあるのかを見失った現代の住宅づくりにこそ、真に求められている原則のように思います。

今、住まい手のあなたや住宅建設に携わる私たちづくり手がともに考えるなければならないのは、今日のベーシックハウスとは何か、「今日の住まいづくりに求められる自然、単純、直裁、正直、経済とは何か」という問いではないでしょうか。



LIFESTYLE

SINKEN STYLE

シンケンスタイルは ライフスタイル

住まいのスタイルは、住宅づくりのスタイルであるとともに、

住まい方のスタイルであると、シンケンは考えます。

その意味で住まいづくりと服飾はよく似ています。

スーツをさりげなく着る人、ラフなセーター姿が似合う人、和服の似合う人がいます。

どんなにすばらしい衣服をデザインしても、

着る人に似合わなければ格好の悪いものになります。

住まう人の人柄やライフスタイルが住まいづくりに反映してこそ、

住まいは魅力的なものになります。

これから住まいを建てようという人が、

どんなライフスタイルを望んでいるかを汲み取ることは、

住まいづくりの上で最も重要なことだとシンケンは考えます。





ECOLOGY

SINKEN STYLE

シンケンスタイルは エコロジー

シンケンのつくる住宅はすべてOMソーラーが装備されています。

太陽をはじめとする自然エネルギーを四季を通して、
できるだけ有効利用したいと考えるからです。

シンケンのつくる住宅で使われる素材のほとんどは自然素材です。

自然素材は住む人の健康に負担がなく、
時とともに美しくなる素材だと考えるからです。

シンケンのつくる住宅には必ず
植栽計画が盛り込まれています。

シンケン、自然の心地よさを感じる
住まいづくりを大切にしています。





<http://www.sinkenstyle.co.jp/>

MUNICIPATION

SINKEN STYLE

シンケンスタイルは コミュニケーション

あなたがシンケンの住まいづくりに興味をお持ちになったら、
モデルハウスや現場見学会にぜひいらしてください。

私たちはあなたの時間の許す限り、
シンケンの住まいづくりについて納得の
ゆくまでお話しします。

COM

シンケンの住まいでどんな暮らし方をしているのか、
知りたければバスツアーに参加してください。

実際に住まわれている方たちのライフスタイル
と声を直に知ることができます。

シンケンの住まいづくりは
コミュニケーションから始まります。

あなたが求めていた住まいのスタイルが
そのなかから出てくるはずです。



雑木林に住まう。

シンケンには雑木林のなかに家があるという
イメージを大切にしています。

季節感や自然を感じる、うるおいのある住まいづくりに
植栽はなくてはならないものだと考えます。

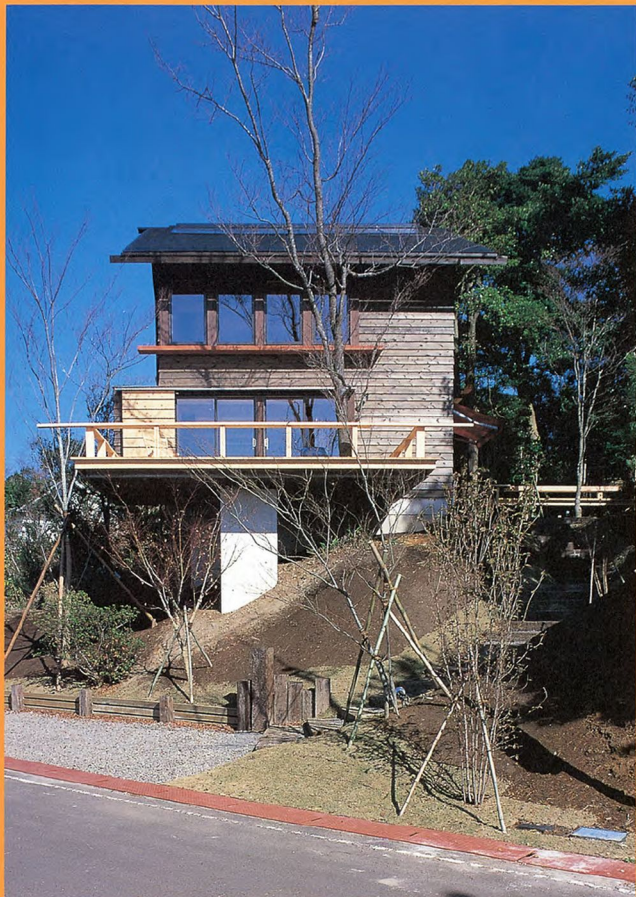
ずっと昔からそこに暮っていたような落ち着いた佇まいをつくる。
シンケンの住まいづくりの基本です。





住まいには その土地にあった 佇まいがある。

住まいづくりは敷地を見なければ何も始まりません。
お客様の敷地を最大限に活かすにはどうしたらいいか、
周辺環境はこれからどのように変化していくだろうか、
まず現地に足を運び、敷地を読むことから
シンケンの住まいづくりは始まります。







深呼吸できる家。

室内よりも開放的で、しかもプライバシーを確保できるデッキ。

シンケン は庭と室内とを連続させるデッキを生活を楽しむための魅力的な空間だと考えます。







019 SINKEN STATION

山田家総勢8人のお出迎え。
外観は無塗装の杉下見板外壁に
黒い三角屋根が載るシンプルなデザイン。



山田さん一家は総勢8人の大家族。
5人目の赤ちゃんが生まれるとなって
新築することを一大決心。
完成した家はワンルームのようなシンプルハウス。
手づくり大好き一家は今日も日曜大工に精を出す。

建物の完成は 住まいの 始まり。

シンケンスタイルはライフスタイル①
山田邸

4 人目まではこのままで大丈夫と
思っていたんですけど、さすが
に5人となると何かしなくちゃとい
うわけで(笑)決意したんです！

と、ご主人。傍らの奥さまの腕のな
かには生まれたての赤ちゃんが
が寝息をたてている。

山田さん一家は、夫妻とご主人のお
母さま、そして上から中学1年、小学
5年、小学3年、幼稚園の年長、0歳
児の5人の子供たち、総勢8人の大所
帯である。

鹿児島大学に勤務する章二さんと夫
人の比呂美さんは新婚時代から13年間
ずっと6畳3間+DKの県営団地に住
んできた。その間次々と家族が増えた
が、これまで一度もマイホームを持と
うなんて考えもしなかったという。

次男坊であり、郷里からも離れて暮
らす章二さんは、土地や家に対する執
着心ゼロ。家はあくまでも家族の生活
を包む器であって、皆が快適に健康に
暮らせればそれで十分、と考えてい
る。

子供が4人の頃までは、部屋なんて
板で仕切ればなんともかならず、どうせ
すぐに大きくなって出て行くだろうか
ら、全員巣立って夫婦2人になったら
キャンピングカー暮らしもいいね、と
話していたくらい、夫婦そろってのマイ
ペース。おまけに子供たちも、1カ所に
集まってワイワイガヤガヤしているの

が好きなところで、誰も自分の部屋が欲しいなんて言ったこともないらしい。近頃まれな結束力を誇る一家である。

大家族は、これまで狭いスペースをうまくやりくりして、お金をかけずに工夫を重ね、和気あいあいと暮らしてきた。3DKの中心である、大きなテールが置かれた現代版の茶の間には、飾り気のない日常があった。山田家の辞書には「プライバシーなんてチャチな言葉は存在しないのだ。」

モデルハウスを見たら 安心してしまった

さて、5人目が生まれるのが8月末とわかってから、比呂美さんとお母さんの偵察部隊は早速リサーチを開始。とりあえず市内の住宅展示場を訪れ、有名メーカーのモデルハウスから順に回って見ることにした。とにかく、生まれる前に建てたいということで、選択のポイントは「早くて、安いこと」と、至ってシンプルである。

展示場に並ぶ、豪華な応接セットのある真っ白な住宅のひとつひとつを端から見字して、いちばん奥のシンケンノ家にたどり着いた時にはもう夕暮れ。「寒い時期だったのですが、なかに入った途端に暖かさに包まれてホッとしたんです。ワンルームで広々とした木の家で、どこか懐かしいような気持ち

子供たちがレゴでつくったOMソーラーの家。早くできないかなー、待ち遠しい私たちの家。



しました。それまでに入ったモデルハウスとは全然違う。思わず長居してしまいました！

比呂美さんとお母さまの博子さんは、そう第一印象を語る。

2人はこの日、それまで見たことも聞いたこともなかったシンケンの家に一目惚れしてしまったのだ。

もともと海や山が好きでキャンプにもよく行くという山田さん夫妻にとつて、素材感あふれる木の家は理想的。しかし、その晩、興奮気味に報告する妻と母の話を聞いて、そんないい家ならさぞ高いだろう……、と思ってしまうご主人だった。

「経済的に大丈夫だろうか、と悩みました。でも、実際にモデルハウスに行くと、シンプルですっきりとしたつくりを見たら、気持ちもすっきりと安心してしまつて。階段の手摺りもスコーンと抜けて、いらんモンが何もない。この家なら、と思いました！」

ラフプランを立てるに当たって夫妻が出した希望は、3人の女の子がみんなで料理に参加できるようにアイランド型のキッチンにするくらいで、あとは特になし。何も知らない素人が横から口出ししないほうがいい家になるだろう、と思っただらそうだ、すでに何軒か実際に暮らしている家を見学させてもって、細かい注文は一切必要ないと確信していたからでもある。



右：新編時代から住み続けきた6畳3間+DKの県営団地。
左：8人の家族は狭いスペースを驚くほど上手に使ってきた。

「とにかくスペースが欲しいということに尽きました。あとは、住みながらいろいろできる家ですから、それができるのがうれしいですね」とお母さま。日曜大工で何でも器用につくってしまふ息子のごことをよくわかっていらっしゃる。

それから先はもう設計部にお任せだった。手持ちの大きな家具がきちんと納まるようにあらかじめ寸法が測られ、食器棚の置き場に合わせキッチン通路スペースも確保された。そして、せっかくな温泉が出るのだから風呂だけはぜいたくにしませんか」という提案を受け、黒御影石振りの床にヒノキの壁、マキの浴槽と、大工さんが腕をふるうことになった。

「特に頼んだ覚えはないのに、みんな社長のイメージで決まってくんです。でも、実は心の底で望んでいたことはかりだから不思議ですよ。」

章一さんは意外な成り行きを面白がる。

この自家用温泉は、大人ばかりか3年生の麻子ちゃんでさえ「お風呂がいちばん楽しみと答えたくらい、新居の目玉なのだ。ゆくゆくはお風呂のデッキの先に露天風呂も掘ってしまおう、庭の片隅には家庭菜園もつくろう、団地の階段脇で種から育ててきた夏ミカンの木もいっしょに連れていこう」と家族みんなの夢は広がる。

「未完成の家」の完成

さて、大きくなっていくお腹を必死で隠しながらの（もう一人生まれるなんて、恥ずかしくて言えなかった）家づくりも終盤に差し掛かり、友人からも通りがかりに見たわよ」と声がかかるようになった。シンプル極まりない家を見て、引き渡し直前であるにもかかわらず「まだ、仕上げはしてないし、中身も何にもないからあと2カ月かかるわね」と言う人もいた。

たしかに「未完成の家」である。何故なら、これから時間をかけて完成させていくのは山田さん一家8人の仕事なのだから。建物の完成と任まいの完成は同じようではまったく別の次元のことなのだ。

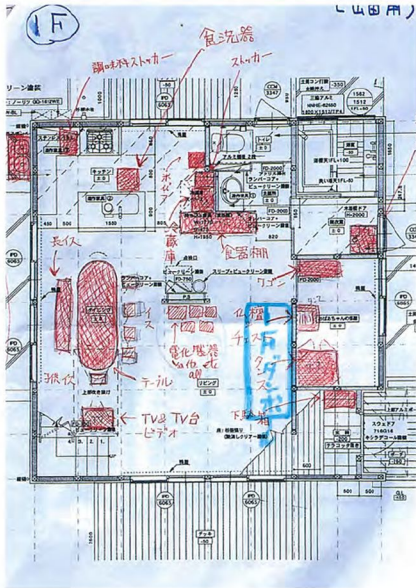
夏が終わり、赤ちゃんも無事生まれ2人が完成を急ぐ理由がやっとわかったシンケンのお若いスタッフたちの奮闘により、OMソーラーのオの字も知らなかった山田さんの新居がでま上がった。秋晴れの朝、引越トラックの到着を待つ間、走り回る子供たちは大きい！広い！友達も呼べる！と大はしゃぎ。

造成間もないニュータウンで、1軒だけ斜めを向いた三角屋根の木の家はとても目立っている。見せてください、と上がり込む人もいる。いつの間にか近所の子がやって来て遊んでいる。



待ちに待った引越越し当日。
家具の配置図を手に博子さんが陣頭指揮を執っていた。

右：
図面に書き込まれた家具の配置。
下：
垂水新港をバックに完成間近の山田邸夕景。



新しい家はすでに山田家のオープンな人柄を写し取っているかのようだ。

少しずつ 自分たちの手で

さて、引っ越しの日から3カ月が過ぎて、気になる山田邸のその後を再び訪れてみた。

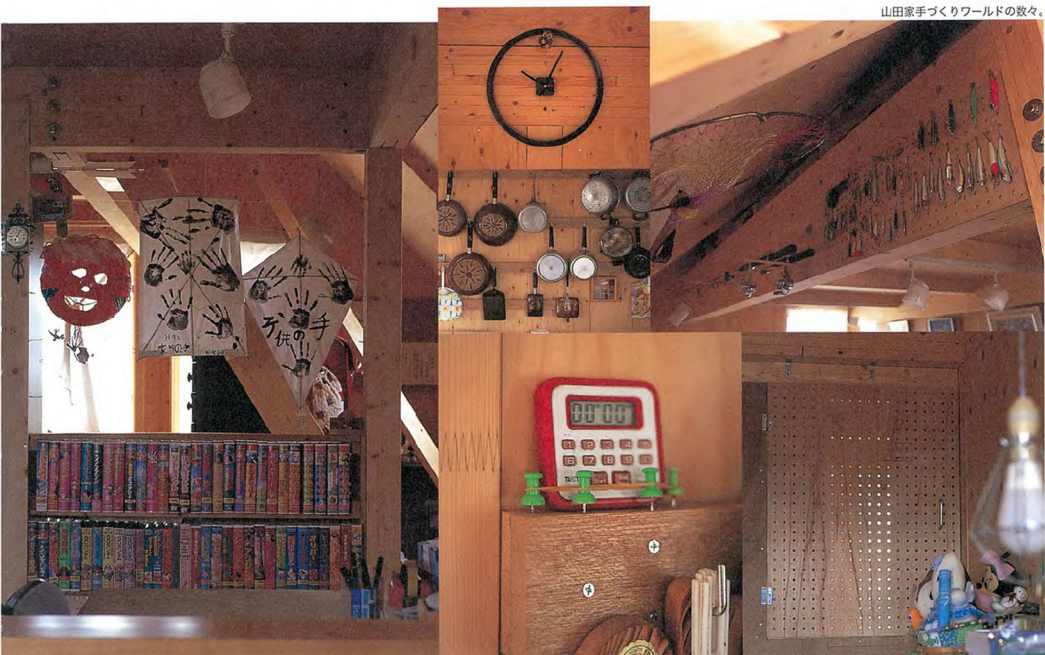
玄関のアプローチはきれいに整地され、敷地の周囲にはぐるりとナンテンの苗木が植わっている。窓からのそく小さな顔が入れ替わり立ち替わりして、やがて家族8人総出のお出迎え。1月だというのにみんな素足なのは驚いた。

「今日は何も暖房はしていません。この温かさは昨日の余熱なんです」と比呂美さん。無垢の木の床はほんのり温かで、柔らかな感覚がある。

広々とした1階のLDKには、団地のダイニングキッチンにようやく納まっていた食器棚と、大きなエクスステンションテーブルがゆとりをもって置かれている。キッチンの壁面には草二さんお手製の鍋掛けにフライパンや鍋がずらりと並んでいた。ははあ、お父さん、日曜大工早速やってますね、と思いがながら2階へ上がらせていただくと、案の定「山田家手づくりワールド」が見事に展開されていた。

柱と柱の間に板を渡したビデオテーブラック、その上は釣り糸を張り巡ら

山田家手づくりワールドの散々。



せて、いろんなものを挟んで留めるアイ
スブレイクコーナー。女の子3人の部屋
には、今春1年生になる三女の萌子
ちゃんのための、ベニヤ板製デスクこれ
はお父さんとお揃い、その脇には引戸
に手や頭を挟まないようにと、風通し
のいい穴あきパネルで仕切り壁と小さ
な小窓が造り付けられている。章二さ
んのパソコンデスクの頭上を見上げる
と、梁のボルト穴を利用してつくった釣
り竿ラック。整理筆筒の裏に木ぎれを
貼り付けた、長男の晋平君が幼少の頃
の作品もなかなかイイ味を出してい
るではないか。

現在進行中なのは次女の麻子ちゃん
のベッド。そのほか、これまでに完成
しているのは庭の鳥の工サ台、キッチン
の外に置く野菜入れなど。もちろん玄
関アプローチの階段も章二さんが手
付けたものである。比呂美さんが思い
つくままに書き出した「つくってほしいも
のリスト」の21項目中、約半分をやつと
クリアしたところだ。

「売っているものよりも、つくったもの
のほうが使いやすいし、丈夫で、何と言
っても安いでしょう。いかにお金をかけ
ずに工夫するかを考えるのは本人も楽
しいみたいですよ」

と比呂美さんはうれしそう。奥さま
はリストアップするだけで、デザインや
サイズなどの細かい注文は一切つけない。
「つくってくれたものを使いこなせば

上：
1階から2階への吹抜けスペース。
手留りを透明にすることで閉鎖感を和らげている。
下：
シンケンオリジナルのアイランドキッチン。
比呂美さんが3人の女の子といっしょに料理する日も近い。



2階吹抜けのコーナーに設けられた
章二さんの仕事スペース。
これも山田家子づくりワールドのひとつ。



女の子3人の子供部屋。
思い思いの飾り付けが楽しい。



いいんですから」というのは、家を建てる時と同じで、山田家全般のものの考え方のように思える。

健康、快適に すくすく育つ子供たち

それであの温泉はどうでした？と聞くと、夫妻の顔はさらにほろんでしまう。「いや、本当にいいですよ。ヒノキの吐水口からお湯が出てくるとすくすくうれしくて。ユニットバスのいちばん安いのでいいと思っていただけど、そうなくてよかったです」

以前はカラスの行水だった章一さんと晋平君も、今は入ったら30分は出てこない。

山田さんの家の場合はこうして温泉を利用できるため、OMソーラーのお湯採りシステムはつけず、ソーラーエネルギーは暖房のみに使われている。大人の留守中に子供たちが学校から帰っても、家のなかはいつでも自然な暖かさに包まれているのでエアコンもストーブもつける必要はない。小さな子供がいる家庭にとって、冬の間、暖房に火を使わなくて済むのは、事故が防げるという点でもとても安心と比呂美さんは言う。

そして、もうひとつOMソーラーのよさは空気が汚れないということ。引越して、さらに桜島に近くなことから灰のために窓を開けられないこと



家族全員のお気に入り「山田温泉」。

1階の広々としたリビング&ダイニング。これだけ広ければ子供たちが友達を大勢連れてきて大丈夫だ。



が多いが、室温を保ちながら自然に換気されているのに感心したそうだ。家のなかに干した洗濯物もお昼までには乾いてしまうし、近所の畜産農家の匂いもまったく気にならない。

「OMが作動する音がし出すと得した気分になりますね。外の気温と中の温度の差を確かめるために、みんなてしよちゅううコントロールパネルを見てます。お客さまや郵便屋さんが、お宅はあったかいですね、って言ってくれますけれど、自分たちは他のふつうの家がどんな感じなのか比べられないところがちよっと残念」

週末は大工仕事か庭仕事に明け暮れているという章二さん、本日の仕事は



リビングに面した「おばあちゃんの室」で周平君と。

モクレンの苗木を3本植えること。団地から連れてきたあの夏ミカンの木はお風呂の窓の向こう、小さなイチゴ菜園の脇に植えてあった。

モクレンの花の色をイメージしながら、いろいろな迷ってやっと苗木の位置を決めて、穴を掘って、肥料をやって……、子供たちといっしょに作業する章二さんの姿を家のなかからにこやかに眺めながら、お母さまの博子さんは言う。

「この子が生まれたからこそ、2人は鹿児島に定住する決心がついたんですから。この子がいるから、この家があるんですよ」

おばあちゃんの胸に抱かれて、周平君はゴキゲンの笑顔を見せてくれた。

YAMADA HOUSE

DATA

【建築概要】

山田邸

所在地 鹿児島県姶志水市瀬彩町
 敷地面積 255.94㎡
 建築面積 64.00㎡
 延床面積 125.00㎡
 (1階63.00㎡、2階62.00㎡)
 建築率 60%
 容積率 200%
 用途地域 第二種中高層住居専用地域
 竣工 1999年10月
 家族構成 夫婦+子供5人+おばあちゃん

主な外部仕上げ

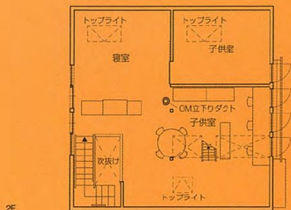
屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
 壁 杉板下見張り(無塗装)
 建具 マーヴィン製断熱サッシ
 木製デッキ 米ヒバ目透し張り

主な内部仕上げ

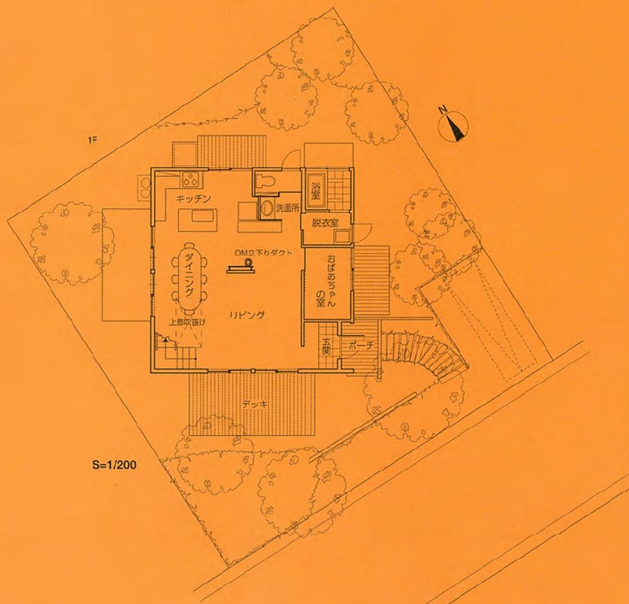
床 杉板張り(1階)
 コルクタイル張り(2階)
 壁 フォルクス構造用合板あらし仕上げ、
 一部ランバーコアにビュークリーン塗装
 天井 フォルクス構造用床パネルあらし仕上げ、
 一部プラスチックボードに
 ビュークリーン塗装

主な設備

暖房 OMソーラー床暖房
 給湯 ガス給湯
 浴室 温泉、床は黒御影石張り、
 壁は檜板張り、木製浴槽
 厨房機器、洗面化粧台 シンケンオリジナル



2F



S=1/200



自然に、健康に
暮らすための工夫。
この家は
それを教えてくれた。

シンケンのモデルハウスに一目惚れ。
そのまま持って帰って住んでしまいたいと思った内菌さん。
木造打放し、高断熱・高气密でありながら
OMソーラーによって四季を通しておだやかに呼吸する健康住宅を
医者として何よりも気に入っている。



内菌邸東面外観。
1階の白壁と2階の杉板壁の対比。
高低差を付けたいくつもの木階が
家全体のプロポーションを整える。
落ち差いでどこかあか抜けたデザイン。



内市内で耳鼻咽喉科の医院を
開く内園さんがシンケンの家を

初めて体験したのは、3年ほど前のこと
だった。外科の医師である友人の新築パ

ーティーに招かれたのが最初の出会ひ。

「まず、変わった家だなと思いました。

そして、そこでシンケンの社長にお会い

して、ユニークな人だな」と(笑)。これ

までコンクリート打放しの家は見たこ

とがありませんが、木の打放しは初めて

だったものですらとても新鮮でした」

当時は開業したばかりで借家住まい。

5年計画でお金を貯めて新築しようこ

と考えていた内園さんだったが、モデルハ

ウスを見たのが運の尽きで、だいぶ計

画が早まり、開業から3年目でもう今

の家に住み始めてしまう結果となった。

「目見て、もうすっかり気に入ってし

まって、このままこのモデルハウスを川

内まで持って帰って住んでしまいたい、

とまで思いました。何と言っても木が

むき出しになっているという点がいい。

直接木に触れることができるし、気を

使わなくていい。構えなくていい、それ

にくっつけるでしょ」

一緒に連れていった子供たちにも評

判がよかった。よく家を新築するなら

子供が大きくなって汚す心配がなく

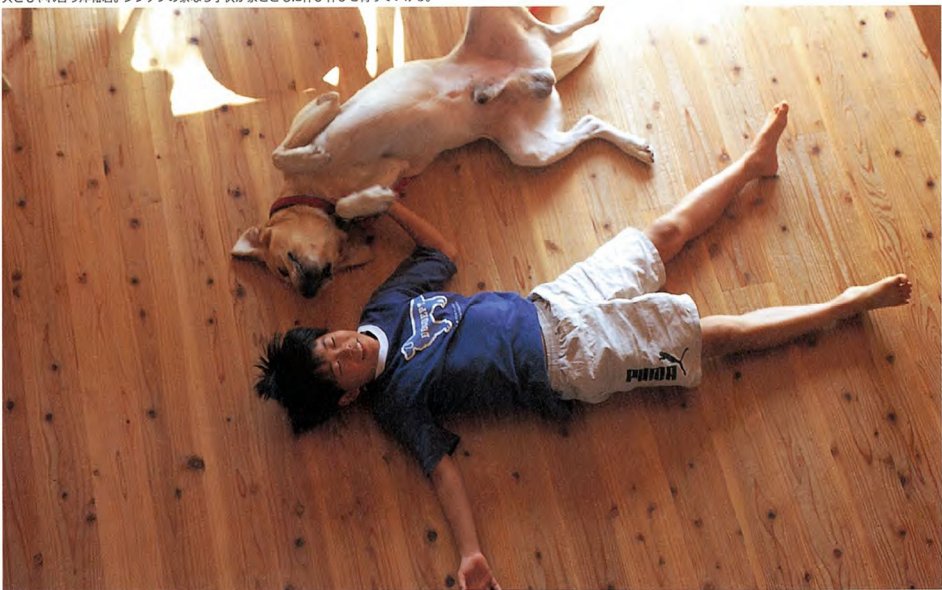
なつてからと言っ人がいるが、それは大

きな間違いだと内園さん夫妻は言う。

「子供が巣立つ前にもともに暮らせるの

は10年そこそこしかないから。その点、

犬とじゃれ合う洋祐君。シンケンの家なら子供が家とともに伸び伸びと育っていける。



シンケンの家なら子供が家とともに伸び伸びと育つていけると思ってたんです」
たしかに犬の爪痕でザラザラになった「いい感じに味の出ってきた床」で、犬と転げ回って遊ぶ洋祐君の姿を見れば、その言葉通りなのがよくわかる。

夫人の智子さんはシンケンの家を選んだ理由に、自分たちのライフスタイルに合っていることをまず第一に挙げた。

「見かけとか、ブランドにこだわらない、他の人の価値観にとらわれないという、自分たちの感性に合った家だなと思います。私たちは、家を建てたいからハウスメーカーを探したのではなく、まずシンケンを見て家を建てたいと思ってたんです。これって大きな違いでしょう」

医師という立場で シンケンの家を見ると

建物の雰囲気がまず気に入った内園さんだったが、構造やシステムを含めた機能面についてはどう思ったのだろう。

「実は、高気密・高断熱については前々から懐疑的だったんです。現代の住宅によってアレルギー性鼻炎の患者が増えたのであって、健康のために良くないと信じていました。高気密・高断熱が良くない理由は3つあります。まず、密閉されているので、冷暖房によって空気が乾燥し過ぎ、空調による空気の循環でホコリが舞つこと。次に、

いい感じに味の出ってきた床。



閉めきりがちで風が通り抜けにくく、壁紙や畳がタニの温床となること。そして、壁紙(ビニールクロス)と断熱材の間に結露が生じてカビが生えやすいこと。その点、シンケンの家は壁紙を張らないし、床に無垢の板を使っているから木が十分呼吸することができ、高気密・高断熱住宅でありながらカビが生える心配もなく、タニの温床にもならない。第一、エアコンが基本的にいらないので、ホコリが空気中を舞つこともない。冬はOMソーラーで自然に換気ができて、夏もクーラーに頼らず自然の風を通すだけで涼しいので、年中家が密閉される心配がないのがいい」
事実、中学2年生の長女、那穂子さん

の鼻炎は、この家のなかでは症状が出ないそうだ。

自分の住んでいる家のなかで病気をうつくるのはナンセンスと内園さんはず。最近、年3回鹿児島県のドクターが集まる勉強会で、シックハウス症候群をテーマにしたのだが、家のなかに無垢の板や、むき出しの木材が多く使われていると、空気中の毒性のあるものを吸着してくれるという。しかし、今住宅に使われている一般のフローリング材は、薄い突板を塗料を生かすためにスライスした板材を塗料で固めたようなもので、とても木とはいえない代物だ。フローリングに白いクロス張りの高気密・高断熱住宅では、建材や接着剤から発生するホルムアルデヒドなど有害物質の逃げ場がなく、頭痛やめまい、刺激臭といった悩みを抱えることにつながる。

「健康のためには、木がむき出して、壁



階段は家族のきずなを深める。
ダイニング、キッチン、階段の配置が絶妙である。

紙がなく、エアコンをつけずに暮らせる家がいろいろあります。」

内園先生の健康的な住まい講座はさらに続く。

「無垢の木を使った木造の家であつても注意しなくてはいけないのがシロアリ防蟻剤と集成材の接着剤です。シケンの家はどうかというところ、防蟻剤についてはコンクリート基礎の下に埋め込んでいるということなので、ソーラーシステムで床下から室内へ循環する空気が汚染される心配がないことがわかりました。それから、建物の構造材（集成材）に使われている接着剤はドイツの基準をクリアした、健康に害のないものだということで安心していきます。ただ、室内の造り付け家具に使った合板にはどうしてもホルマリンが含まれてしまうので、これは少々改善の余地あり、とご指摘をうけますね。」





やりたいことは、 すべてやった

設計に際して内園さんが望んだのは、空気を清浄に保つためにも、掃除のしやすい家にしてほしいということ。そのため、内園邸では手の届かないところにホコリが積らないように、梁をむき出しにせず、天井を張ることにした。また、間接照明もやめて、天井にダウンライトを入れた。これも照明器具にホコリがつくのが嫌だったから。そして、部屋数がたくさんあると、片づけるのに手間がかかるし、どれかひとつは納戸のようになってしまつので、細かい部屋はつくりず、ゆったりと広い空間づくりを希望した。

一方、智子さんがこだわったのはキッチンまわりの収納である。雑誌で見たアイデアを活用して、トースターもコーヒーマーカーもミキサーも戸棚のなかに入れたまま使えるようにしてある。カーポート側の勝手口のそばにつくったパントリーは、重たいビールケースなどを車からすぐに運び入れることができる。キッチンカウンター下はすべてキャスター付きのワゴン収納とし、引き出して掃除ができるようになっている。

収納に関してさらに言えば、この家には押し入れがひとつもない。入れっばなしで使わなくなるから、というのが



上:
「消防士のように2階から降りたい!」洋祐君の希望が現実となった。右:
デッキでくつろぐ内園一家。



その理由だが、収納場所はロフトと玄関横のスペースに限っている。そこに行けば必ず探し物も見つかる。家族全員の洋服は、1階の廊下にウォークインならぬウォークスルークローゼットを造り付けて収納している。水まわりへの通り道なので、脱いだ衣類を洗濯機に入れるのも、お風呂から上がって着替えるのも、出かける前に支度するのにも全部そこで済んでしまうグッドアイデアである。

「こうした私たちの細かい思いつきに對して、それはやったことがないから、

UCHIZONO HOUSE

DATA

【建築概要】

内 菌 邸

所在地 鹿児島県川内市御下町
敷地面積 508.34㎡
建築面積 105.00㎡
延床面積 162.00㎡ (1階104㎡、2階58.00㎡)
用途地域 準工業地域
構造 木造2階建
家族構成 夫婦+子供2人
竣工 1997年12月

主な外部仕上げ

屋根 ガルバリウム銅板横置き
壁 弾性ソフトリシン、一部ガルバリウム波板張り (1階)、
杉板横張り (2階)
建具 マーヴィン製断熱サッシ
木製デッキ 米杉目直し張り

主な内部仕上げ

床 杉板張り (オスモカラー塗装) (1階)、コルクタイル張り、
一部SPFすのこ敷き (2階)
壁 スプルス合板あらし仕上げ
(オスモカラー・エクストラクリアー仕上げ)、
一部ランバーコアAEP塗装
天井 床パネルあらし仕上げ
(オスモカラー・エクストラクリアー仕上げ)、
一部PB下地、AEP塗装

主な設備

暖房 OMソーラー床暖房
給湯 OMお湯採り、ガス給湯
厨房機器 シンケンオリジナル

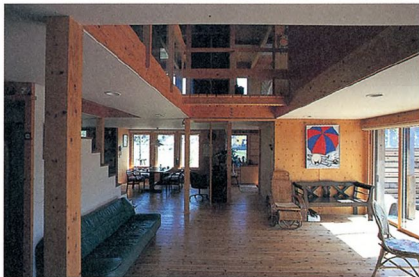


自然に 暮らすということ

これまで訪れた何軒かの家では、ソーラーハウスの暖かさについて聞かされる事が多く、「家中ほかほか暖かいもの」というイメージを持っていたのだが、それは間違いだと内菌邸で教えられた。ソーラーハウスは、真冬でもTシャツでぬくぬく過ごすようなアメ

ちよつと……と決して言わなかったシンケンさんには感心しました。息子が希望した、消防士みたくに2階から降りられる昇降棒にしても、私が洋画を見ていいと思った、洗面所のミラーを扉にする薬棚にしても、それはいい、すぐにやりましょつと賛成してくれて、さらにそれを超えるいいアイデアを出してくれるんです

リビングから吹抜けを通してダイニング方向を見る。



リカンスタイルの浪費形暖房住宅ではなく、ただ年間を通して家中の気温差のない家なのだ。

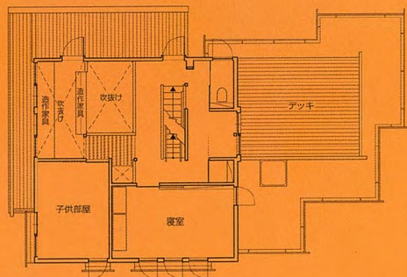
「この家は太陽とか風とか自然のエネルギーを最大限に利用して、自然に、そして健康的に暮らすための工夫がしてあるということです。夏には汗をかき、冬はちよつと重ね着して、という生活が自然なんだということをごこの家で学びました」と、内菌さん夫妻は言う。

ぐるりと田んぼに囲まれて、稲穂の色の変化やカエルやトンボに季節を感じる毎日。庭のコナラの木は今年もたくさんどんぐりを落としてくれた。

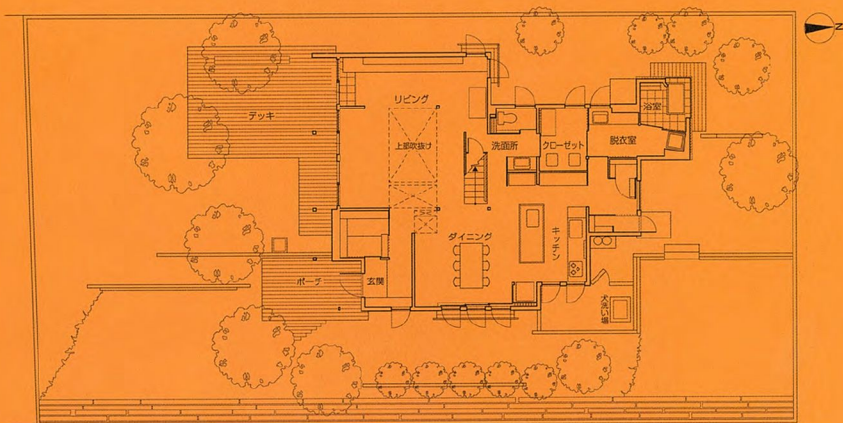
「ただ帰って寝るだけの家じゃなくて、犬も含めて家族みんなの安らぎの場であること、コミュニケーションの場であることを望んでいましたが、その通りになったと思いますね」

智子さんは最後にそう結んだ。

S=1/200



2F



1F



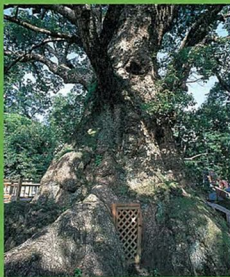
環境に 開かれた デザイン

シンケンスタイルはエコロジー①

現在、私たちの家庭で使われているエネルギーのほとんどは石油、天然ガス、原子力などの資源エネルギーです。こうした地球に有限な資源エネルギーの利用を極力抑え、地球上に無限にふりそそぐ太陽熱や風力などの自然エネルギーを住宅にも使っていこうという考え方が、私たちの国においても次第に広まっています。シンケンも自然エネルギーを住宅のなかに活かすことを積極的に考えてOMソーラーというシステムを採用していますが、こうした自然エネルギーの利用がどのような考えからはじまったのか、自然エネルギーを住宅に活かすとはどのように住宅を考えることなのかをお話ししましょう。

蒲生の大クス

鹿児島県蒲生町の蒲生八幡神社境内に根をはる大クスは、樹齢二五〇年を超え、根周り約34m、幹囲約24m、高さは20mもある巨木だ。昭和63年に実施された環遊町の巨樹・巨木林調査で幹回りが日本一に認定された。樹根部には人が入れるほどの大きな空洞があり、まさに呼吸する天然の木の家といえる。



34

我

が国で大量のエネルギー供給がされるようになるのは、1950年代後半になつてからです。石炭に代わって石油が出回り、どの家庭でも石油ストーブが使われるようになります。住宅に使われる電力も急激に増えていきました。1960年代になると、クーラーも次第に普及していくようになります。我が国がこうした石油をはじめとする資源エネルギーを投入することで、家庭の暖冷房を賄うモデルとしたのは、言うまでもなくアメリカです。戦後のアメリカはそれまで軍需物資として統制されていた有り余るほどの石油の使い道を暖冷房利用につき込むことを考え、暖冷房技術が飛躍的に高まった時期でもあったのです。周辺環境とは無縁の遠方から運んできた高エネルギーの資源エネルギーを湯水のように使えば、室内を外部の環境に左右されず、人工環境として維持していくことは比較的たやすいことです。

しかし、1960年代のアメリカで、こうした建築のあり方に対して、疑問を持った人もいたのです。『環境としての建築』という本を1965年に著したレイナー・バンハムは、設備技術だけが一人歩きをはじめ、室内環境をつくるという建築の役割を設備がすべて肩代わりしていくと、建築はどうなっていくのか、建築が室内の快適性を生む努力を放棄して、設備がつくる人工環境におんぶされるようになるのは、建築家の創造力の怠慢ではないのかという意味のことを述べています。

バンハムのいう「建築家の創造力」に火がつくのは、70年代に入ってからです。それにはいくつかの契機がありました。決定的だったのは1973年10月の

「自然」の再発見

第4次中東戦争の勃発をきっかけに起こった第一次石油危機です。石油が絶たれると、私たちの暮らしも経済もまったく立ちゆかなくなることを世界中の先進国が思い知らされたのです。そして1980年以降の地球温暖化をはじめとする地球環境問題によって、資源エネルギーだけに依存してきた建築の考え方は、根本的に変化を余儀なくされていきます。それは一言でいえば、建築における新たな「自然」の再発見といえる事件でした。

第一次石油危機の起こった1973年、アメリカの建築家A・パウエンは「パッシブ・アンド・ローエナジー」という建築運動を提唱します。パッシブとはアクティブの反対語で、辞書を引くと、「消極的」「受け身の」「無抵抗の」といったネガティブな意味合いの語彙が並んでいます。パウエンは「外部の環境に開かれた」というぐらいの意味で使っています。つまり高エネルギーの石油を使って暑さや寒さを力で押さえ込むのではなく、太陽エネルギーをはじめとする自然エネルギーを建築に巧みに活かしているという運動です。この運動はパッシブ建築を世界に広める上で大きな影響力を持って今日に至っています。

ところで、建築に自然エネルギーを巧みに使った例は、世界中至るところにあります。石油のような資源エネルギーを豊富に使うことのできなかつた時代の建築は、すべて自然エネルギーを利用していたともいえます。特に気象の変化の激しい日本の民家は、風土と一体となった美しい形態をしています。建築家のアントニン・レーモンドは「日本の住宅は自然の形の進化に似ている」と述べています。



高密度であるが有限な石油などの資源エネルギーとはまったく対照的に、パッシブ建築が利用する太陽光や風といった環境エネルギーは地球上に無限にあります。しかし、エネルギーの密度は希薄であり、時間的・季節的・地域的にも異なります。パッシブ建築はその建てられる地域の自然条件を現在の先進技術を用いて解析することで、自然エネルギーを利用します。建築における新たな「自然」の再発見といったのはそのことです。熱や空気の流れの解析が必要なパッシブデザインは、1970年以降のコンピュータの普及によって、変動する気温の影響や日射の集熱・蓄熱効果を予測するプログラムが設計のシミュレーションツールとして開発され利用されるようになって、初めて可能になった設計方法なのです。





パッシブな住宅の大きな特徴は、建築を自然環境から遮断された閉じた空間として考えるのではなく、常に外界と応答しているものと考えるところから始まります。日射、気温、湿度、風などは私たちの望む環境にとって有利にも不利にも働きます。有利に働く場合、不利に働く場合を見きわめ、その矛盾を解決する手法を考えるところが、パッシブ建築の特徴になっています。そのためには、その土地の地域特性を正しく把握しておかなければなりません。室内の温熱環境を機械的な手法に多くを依存するのではなく、周囲の環境・地形、建築材料、建築の平面や断面計画といった建築全体のなかで考えていくのが、パッシブ建築です。

どのような建物でも、建物の善し悪しにかかわらず、あるいは設計者が意識するとしなやかかわらず、その内部空間は外部環境と熱的に関係しています。それを模式図で表すと、図1のようになります。「集熱」は建物の内部に外界から熱が入ってくることで、「断熱」は建物の壁、屋根、床などから熱が外に逃げていくのを遮ること、「気密」は空気そのものが熱を運んで出ていくのを遮ること、「蓄熱」は建物内部や建物を構成する部材に熱を蓄えることをいいます。建物をめぐる「集熱」「断熱・気密」「蓄熱」の間には、必ずこのような関係が成立していて、この3つのバランスのなかで、室内の温度は決まってきます。従って、そのバランスを上手にコントロールすることが、パッシブシステムの設計の基本です。

では、そのバランスをどのようにとっていくのかを次に考えてみましょう。

パッシブな住宅の考え方

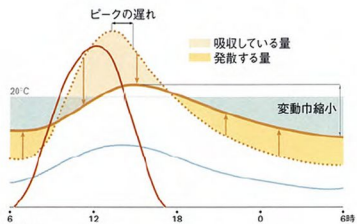


図4

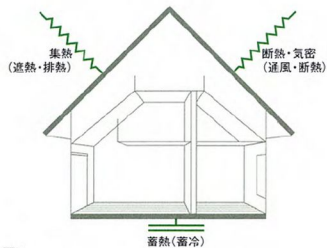


図1

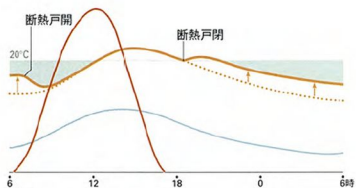


図5

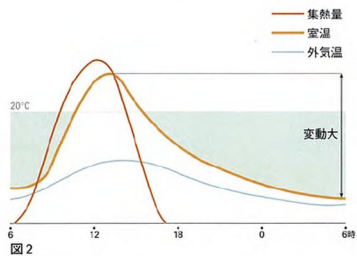


図2

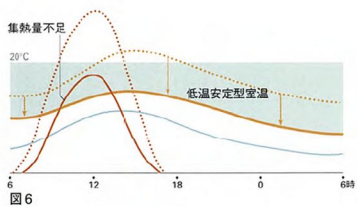


図6

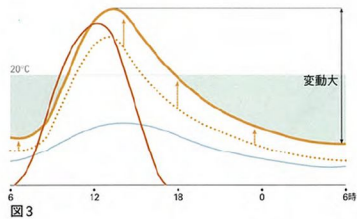


図3

図2は日本の昔からある木造住宅の1日の室温変動を模式的に示したものです。断熱性能も蓄熱性能もあまりよくありませんが、南側の開口部は大きくて日が射している時間帯には日射がたっぷり得られます。このような住宅の場合、晴れた日中は室温は急上昇しますが、日が沈むと室内は急に外気温に近づき、昼夜の温度差が大きくなっています。

図3はこの建物の断熱性能だけを改善した場合です。建物から逃げる熱が減るので、室温は全体として高くなります。しかし、昼夜の温度差が大きいことには変化はありません。

図4はさらに適当な蓄熱性能を持たせた場合です。日中の余分な熱は蓄熱されて夜にそれを放出するため、室温の1日の変動幅は1日の平均室温を中心として縮小します。また室温が最も高くなる時刻は昼より夕方にずれるので、就寝するまでの室温は改善されます。

図5はさらに夜間、開口部に断熱戸を加えた場合です。夜間の熱の逃げが減るので、夜の室温降下は少なくなり、室温の1日の変動幅はもっと縮小します。ところが、改善の仕方を間違えると悲惨なことになります。それが図6です。蓄熱量を増やすことはいいことだと、集熱量を無視して蓄熱量だけ増やすと、集熱してもいっこに暖かくなり、1日中暖房しなければならぬようなことにもなります。

このようにパッシブな住宅とは、自然環境から得られる熱と蓄える熱、室内から流出する熱を建築的工夫によって調節し、バランスをとることで快適な室内環境をつくらうとする考え方なのです。

心肺機能

ソニーのM 原理

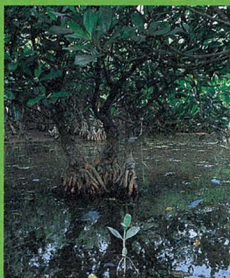
住ま まいの

シンケンスタイルはエコロジー②

31°20'

喜入のマングローブ

世界最大級の日本石油喜入基地で有名な鹿児島県喜入町にマングローブ(マヒルギ)が生育している。マングローブは海水で育つ樹種の総称で、分布は基本的には熱帯、亜熱帯に限られるが、喜入は北緯31度20分世界分布の北限である。満潮時には海水に浸り、干潮時には干上がる植物にとって、たいへん過酷な環境だが、マングローブの林の中では植物と動物が共存して静かに暮らしている。





ツシブ建築「『パッシブソーラー』という言葉
葉がまだ生まれていない60年代に、すで
に生き物のように建築自体に外界の変動
の影響を縮小する能力を持たせることはできな
いだろうか」と考えたひとりの日本の建築家がいまし
た。
OMソーラーの生みの親である奥村昭雄先生(東京
芸術大学名誉教授です。建築を外界と応答する熱
的なシステムと捉えて建築デザインする奥村先生
の研究は、80年代になって、コンピュータ解析による
太陽熱の熱収支シミュレーション開発へと至り、つ
いに1987年にOMソーラー利用による住宅が誕
生します。

奥村先生は、「OMソーラーの目指すもの」とい
う一文で、次のように述べています。

「人間には適度な刺激が必要である。それによつて
人は生きものとしての活性を得、健全で健康な心と
体を保つことができるというのがOMソーラーの基本
的な考え方である。それには、自然の変化に触れ、それ
と上手につきあうことである。OMソーラーは原始的
な生活に我慢しようと考えているわけではない。反対
に、新しい技術―適正な技術を利用・開発して、豊か
で健康で、自然とともに生きる生活を求めようとし
ている。同時に、本当の豊かさや健康とは何かにつ
いても、多くの人とともに考えていきたい。OMソーラー
は固定した技術ではないし、省エネルギー技術だけ
でもない」

シンケンがつくる住宅には、すべてこのOMソー
ラーの考えとシステムが活かされています。では、OM
ソーラーの仕組みを見てみましょう。

OMソーラーは軒先から外気を取り込み、太陽の

冬のOMソーラー

屋根、軒先から入った空気が屋根裏材の下を上昇していくうちに
暖められ、機部分では70℃に達します。屋根上部にあるガラス集熱
面は屋根裏の空気をより効率的に暖めるためのものです。暖められ
た空気がハンドリングボックス内のファンによって立ち上がりダク
トを経由して下のコウクリート面に送られ加熱されます。夜間も
床表面温度は20℃、室温は20℃と、快適です。



夏の昼間のOMソーラー

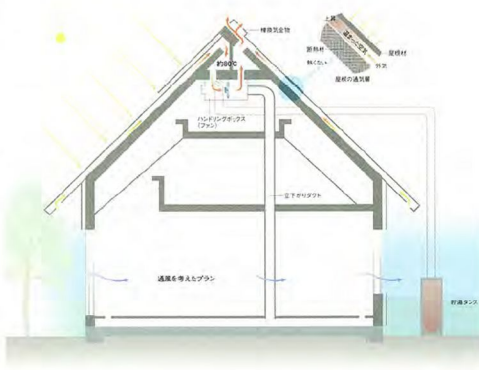
夏の室内を不慣れにするのは熱した屋根、天井からの放射熱、屋根裏
換気と断熱が十分でない一般の住宅では、夏の期間、天井裏に巨大
な暖房機を置いておくと同じ状態にあります。OMソーラーは屋
根裏を強制換気することで屋根裏部分の熱気を追い出します。また
高温の空気を利用してお湯をつくることも同時にします。

熱で暖めるソーラーシステムです。冬の屋根、軒先から入った冷たい空気は、屋根葺き材の下を通りながら太陽熱によって徐々に熱せられ、棟部分に達するときは70℃以上になります。この暖気は集熱ダクトで集められ、小型ファンで床下の蓄熱コンクリートに送られます。床下の隅々まで送られた暖かい空気は、蓄熱コンクリートをゆっくり暖めます。夜間は、室温が低下するとともに土間コンクリートから放熱して床全体を20〜25℃に暖めます。

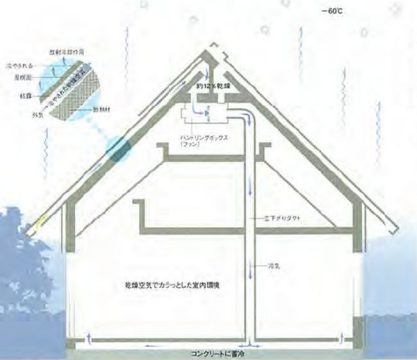
床暖房の不要な夏には、屋根で暖まった空気は、昼の間、貯湯タンク内の水を暖めることに利用され、その後は棟部分から強制排気されます。

OMソーラーを装備していない一般の家では屋根裏に熱がこもりますが、シンケンのつくる家ではOMソーラーのために、そのようなことはありません。夏の夜間は、外気温が室温より低ければ、屋根面の放射冷却によって除湿したさわやかな空気をダクトに取り込んで床下へ送り、寝苦しい夜をすがすがしい夜にすることができます。

こうして住宅はOMソーラーシステムを採用することで、外界に開いた心肺機能を持つことができます。



夏 太陽が沈むと大気中の湿度は地表の建物よりかなり低くなります。快晴の日の夜は室温はマイナス50〜60℃になることもあります。夜間、軒先から屋根葺き材の下に入った空気が、放射冷却によって温度を下げることに結露することで水分とられ、ドライな冷気になります。それを床下へ送り込み、蓄冷することで室内をさわやかにします。



OMソーラーは 空気集熱式ソーラーです。

OMソーラーは外気を利用した空気集熱式ソーラーです。

軒先から外気を取り入れ、

その外気を屋根のすぐ下に設けた空気の道に誘導し、
屋根面に降りそそぐ太陽熱で暖めようというものです。

空気集熱式ですから、水集熱式のような

漏水による事故に直結せず、凍結の心配もありません。

OMソーラーは 夜暖かい低温床暖房システムです。

日中、屋根で集熱した暖かい空気は床下に送られ、床下コンクリートに蓄熱されます。

日が落ちて室温が低下するとともに、木質床を通してゆっくり放熱させる仕組みです。

OMソーラーの温熱環境が優れている点は、

こうした床暖房システムが放射暖房であり低温暖房だという点です。

OMソーラーは住まい全体を広く、部屋間の温度差を適度に抑え、

均質な温熱環境を実現できることが特徴です。

OMソーラーは 冬の優れた換気装置です。

ストーブなどの一般の暖房装置を使用する場合、室内の空気を
換気しようとする、暖まった室内の空気は外に逃げてしまいます。

建物にとって、こうした換気負荷は軽視できません。

空気集熱式ソーラーであるOMソーラーは冬の暖房装置であると同時に、

外気を負荷とせずに取り入れることのできる、とても優れた換気装置でもあります。

また、外気を送り込むことで室内をプラス圧に保ち隙間風を防ぎます。

OMソーラーは お湯採りもできます。

OMソーラーは、
屋根で集熱した高温の空気から熱交換コイルを
利用してお湯をつくることができます。
春から秋にかけて約300リットルの貯湯槽に
30～50℃のお湯が得られます。

OMソーラーは 夏はクーリングシステムです。

夏のOMソーラーは、
集熱屋根の熱い空気をお湯採りに利用した後に排気します。
夏の昼間、小屋裏は70℃以上の高温に達することがあるので、
その熱を除去して居室への流入をシャットアウトすることは大きな意味があります。
また夏の夜間、天空放射冷却を利用して
さわやかな外気を室内へ取り入れることもできます。

OMソーラーは 太陽光発電もできます。

OMソーラーの集熱屋根にアモルファスタイプの
太陽電池を取り付けることで
太陽光発電を集熱と同時に行うことができます。
この太陽電池は金属屋根葺き材と一体になったもので、
従来の単結晶型や多結晶型太陽電池と異なり、
施工的にもデザイン上も優れています。

OMソーラーは独自の シミュレーション・プログラムにより 気象データと設計プランから 住宅の性能予測ができます。

OMソーラーは独自のシミュレーション・プログラムによって、
建物が建てられる土地の自然条件を解析します。
また建てられる建物の屋根勾配、床面積、開口部や構成部材、
家族のライフスタイルなどのデータを検討することで、
より良いプランニングをシミュレートすることができます。



1 鹿児島市の気象データ



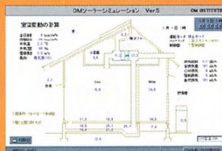
2 鹿児島市の風配図



3 生活パターンと室温



4 建築材料のデータファイル



5 室温変動のシミュレーション結果

低温床暖房は 日溜まりの 暖かさ

シンケンスタイルはエコロジ③

隣 国韓国には昔から伝統的な床暖房である
オンドルがありました。今日においても
現代住居のほとんどに床暖房が装備され
ています。またドイツでも新築戸建て住宅の約30%
に床暖房が採用されているという報告があります。
日本でも床暖房の快適さについての認識が近年、徐々
に根付きつつありますが、一般住宅の暖房器具の主
流はまだエアコンやファンヒーターです。エアコンや
ファンヒーターと床暖房とは根本的にどこが違う
のでしょうか。

エアコンやファンヒーターは温風を吹き出すこと
で、室内の空気を暖め、また空気を部屋のなかで強
制的に対流させて暖房する方法で、「温風暖房」と呼
ばれています。一方、床暖房は広い床面を床下に暖か
い空気や温水を通すことで比較的低い温度で暖め、

暖房器具と熱の伝わり方



オンドル
韓国の床暖房オンドルは高句麗時代の4〜6
世紀の古墳壁画にも見られるように、かなり
古い時代からあった暖房法である。
一般に厨房のかまどの排気坑を延長して、暖
房する部屋の床下に煙道を通し、その先の屋
外に煙突を立て、煙を排出する。
現在の韓国ではオンドルにかわって温水床暖
房が普及し、従来のオンドルは田舎などでわ
ずかに見かける程度である。

4~6

その「放射」によって周壁面全体の表面温度を上げ、室内空気を過度に上げることなく暖房する方法で、「低温放射暖房」と呼ばれています。

「温風暖房」は空気を暖める関係から暖められた空気が天井面に集まり、室内の上下の温度差をつかってしましますが、床暖房の場合はそうした温度差や不快な空気の吹き出しを感ずることがありません。しかも床からの伝導熱を伴いますから足下が暖かく「頭寒足熱」の好ましい室内環境といえます(図1)。

このような熱の伝え方の違いが、室内の暖房の快適さを大きく変えているといえます。熱の伝わり方には大きく3つの種類があります。気体や液体は暖められると比重が軽くなり、上昇していく性質があることは、よくかき回さずに湯船に入った失敗など、日常でもよく経験することです。これが「対流」です。また湯たんぼやアンカのように発熱体に直接接触れることで暖を取る方法がありますが、これは熱の「伝導」(物体のなかを熱が高い方から低い方に伝わる性質)を利用したものです。

そ

れでは残りの「放射」とはどんな熱の伝わり方なのでしょうか。どのような物体でもその物体からは必ずその物体が持つ温度に応じた赤外線が出ています。それが「放射」です。私たちがこの「放射」による暖かさをもっともよく経験するのは、冬の日のひなたぼっこでしょう。氷点下に近い真冬の屋外でも、風がなく、晴れていて日が射していれば、ぼかぼかとした暖かさを感じることが誰でも経験しています。このように私たちが暖かさを感じる原因が空気の温度ばかりでない

日溜まりの暖かさと床暖房

ことを冬のひなたぼっこは教えてくれます。ひなたぼっここの暖かさの正体は、まさに太陽からの赤外線放射熱なのです。

ところで太陽から大気圏を通過して私たちのものにどのような赤外線が降り注いでいるのでしょうか。それを表したのが図2です。これを見ると波長の長さによって私たちのものに届いていない赤外線もあることがわかります。特に波長が5〜7μmの範囲がすっぽり抜けているのは、この範囲の赤外線が大気中の水蒸気にほとんど吸収されてしまうからです。もっとも幅広く大量に降り注いでいるのは8〜13μm付近で、この範囲の赤外線が、私たちがひなたぼっこで暖かく感じる正体だといえます。床暖房の一般的な床表面温度(24〜26℃)の物体が放射する赤外線波長スペクトルと太陽の赤外線窓領域(8〜13μm)を比べてみると、その分布がほぼ重なることがわかります(図3)。このことから低温床暖房の暖かさが、冬の日溜まりの暖かさに似ていることがうなずけます。

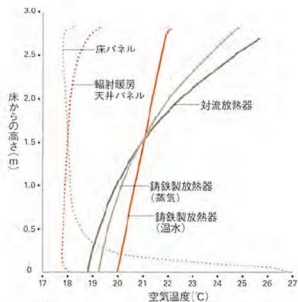


図1 各種暖房方式による垂直温度分布の比較(空気調和・衛生工学実習より)

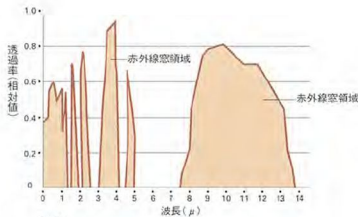


図2 赤外線の大気透過

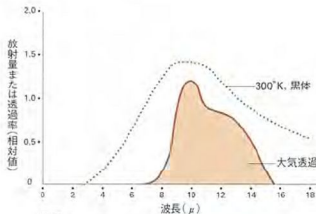


図3 赤外線の大気透過と27℃(300°K)の黒体の放射量の比較

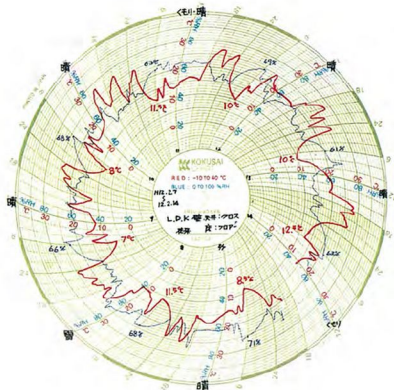
O Mソーラーを装備したシンケンの住まいの室内は、冬の間、安定した日溜まりの暖かさを保つてくれます。それを一般の住宅と比較したデータがあるので見てみましょう。3つのグラフは、平成12年2月7日から14日まで鹿児島市内で温度と湿度を継続的に1週間記録したものです。左側のグラフがシンケンの住まいの室温（赤線）と湿度（青線）を記録したものです。右側のグラフは同じ敷地に建つ一般の住宅の室温と湿度の記録です。真ん中のグラフは敷地の外気温と外湿度を測ったものです。

一般の住宅ではグラフのギザギザが目立ち、1日の間で室温、湿度ともに大きく変化していることがわかります。朝方暖房を止めた室内は、10℃程度に下がっています。また逆に、夜間、暖房を入れた室内は過度に室温を上げています。

一方、シンケンの住まいをみると、室温は15〜20℃、湿度も50%前後をなめらかに推移しています。2月8日は雪が降り、翌朝6時に外気温はマイナス2℃まで下がりました。その時の一般の住まいの室温は、前日の深夜に25℃まで暖房していたにもかかわらず、7℃まで落ち込んでいます。一方、シンケンの家を見ると、補助暖房を使用しなくても16℃を保ち続けています。

温湿度 円グラフ記録

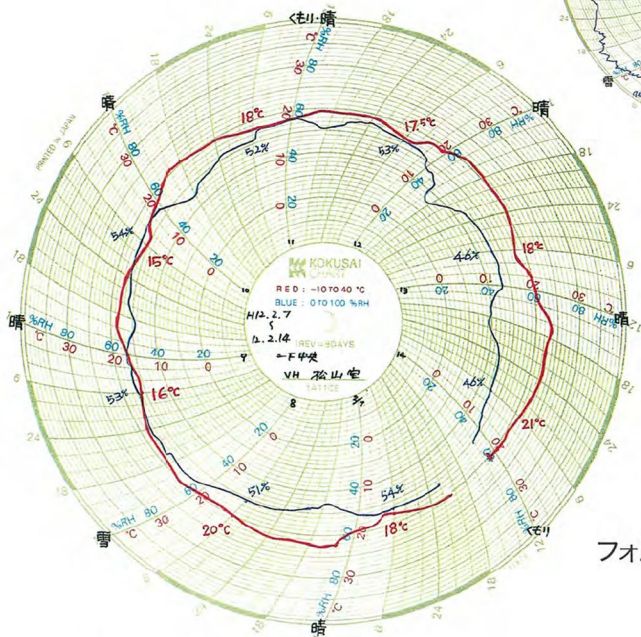
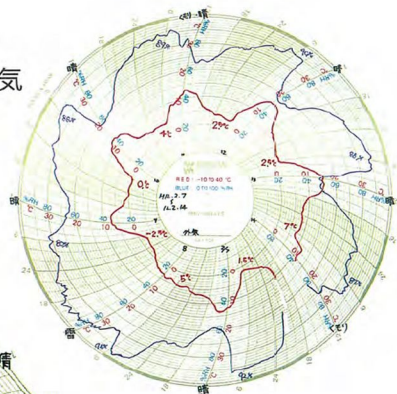
平成12年2月7日
〜
2月14日



シンケンの住まいは 安定した、ほどよい暖かさが特徴

一般住宅1F茶の間

外気



シンケンの住まいの室温と湿度
OMソーラーの家
フォルクスハウス松山邸2F中央部



時間を デザインする

シンケンスタイルはエコロジー④

知覧武家屋敷群
今から250年余り前の町並みが残る鹿児島県知覧町の武家屋敷群は、島津藩政時代に113の外城のひとつとして築かれた、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、二石の石垣、刈り込みの生垣、敷石、門構えは美しく、薩摩の小京都の名にふさわしい、時を感じる佇まいだ。



250

慌

ただしい日々の仕事や生活から逃れて、のんびりと古都や田園風景のなかを散策したいと思うことが誰にでもあるはずです。私たちがなぜそうした空間や場所で、自分を取り戻すことができるのかをあらためて考えてみると、そこにはふだん私たちが暮らす場所とは違う時間、もっとゆったりと流れる時間があることに気付きます。山裾の斜面に幾百年かけてつくられた棚田の風景、苔むした古道の石垣、風雪が洗い出した板倉の木目……。ゆったりと流れる時間が感じられる場所には、かならず「時間美」とでも呼べる風物が存在します。日本庭園の美はこうした時間美がつくりだした傑作といえるでしょう。四季の変化のはっきりした日本の風土のなかで、私たち日本人はこうした時間がたっぷりだした味わいや豊かさを美として愛で、感じ取る感性を育ててきたのです。

1960年代以降、日本は猛烈なスピードで、高速道路や鉄道、ガスや水道といったインフラを整備し、衣食住全般にわたる私たちの生活スタイルは、日本の歴史上、かつてないほどの大変化をここ数十年の間に遂げました。その結果、大変便利な生活を私たちは手にしましたが、この国で私たちが失ったものも大変多いのです。

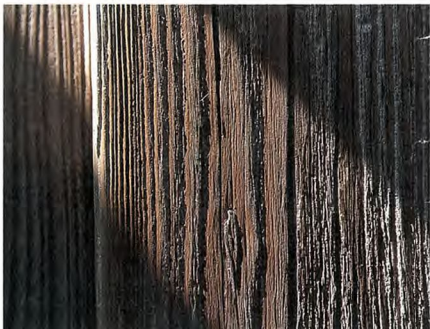
ある学者が行った面白い実験があります。2000メートルの町並みを最初は、時速40キロのスピードで自動車を運転し、次に自転車、最後に歩いて、その時目に映り、記憶されたものをすべて記録するという実験です。その結果はあたりまえのことですが、自動車、自転車、徒歩の順でスピードが速いほど記憶された情報は少ない。スピードと記憶量は反比例

生活を器に時間のリズムを

するということがわかりました。

私たちはここ数十年の間、自分たちの生活を文字通り、徒歩でなく車を猛スピードで駆って暮らしてきたといえるでしょう。町を歩いていて、それまで建っていたはずの建物が忽然と消え、更地が変わっていることは日常化しています。そこにどんな建物が建てられていたかとも思い出せないほどです。しかも次に建てられるほとんどの建物や住宅には時間美とは無縁の新建材が使われています。スクラップ・アンド・ビルドが繰り返され、時間経過の様相を脱ぎ捨てた都市のなかで、今私たちはほとんど町の風景に対して記憶喪失に近い生活文化状況にいないとも言い過ぎではないでしょう。

こうした暮らしのなかで、生活の器となる住居のなかに、いかに時間のリズムを取り込むか、変化する時間を計算に入れながら住まいの計画を立てるか、時間の経過に耐えうる質と美を持たせるかという問題は、きわめて重要な問題だと、シンケンは考えます。



日

本の住まいの寿命が欧米に比べてきわめて短いのは周知の通りです。全国の住宅ストック数をその年につくられた新築数で割った数字をみると、日本では30であるのに対し、ドイツでは79、アメリカでは103、イギリスでは141となっております。

この数字はそのまま住宅の寿命を表しているわけではありませんが、各国の住宅寿命の比較にはなりません。また住まいの寿命を語る時に必ず引き合いに出されるのが、大蔵省令の耐用年数です。鉄筋コンクリート住宅は60年、木造住宅では24年という数字があげられています。しかし、実際の住宅寿命を調査してみると、コンクリート造と木造にそれほどの違いはないという結果が出ています。日本の住宅の場合、物理的な耐久性となんら関係のないところで壊されることがほとんどなのです。

日本の住宅はなぜこんなに早く壊されるのでしょうか。それには日本の湿潤な気候風土や土地本位の税制度などいくつかの理由が考えられますが、日本の多くの住まいが20年もしないうちに陳腐化してしまつという、住まいづくりそのものにも大きな問題点があるのです。住まい手が、長い間、気に入って住んでいるか、住みなせる計画になっているかどうか、住まいの寿命に大きく関係しています。

シンケンが住宅を建てる時に、時間の経過ということ計算に入れて、プランニングや素材の選択を熟考することをとっても重要なことだと考えているのはそのためです。

着慣れた衣服のような住まい



外壁の耐久性とは いつまでも

メンテナンスができること。

外壁の耐久性とは腐らないことではありません。

耐久性とはいつまでもメンテナンスが
できることだとシンケンは考えます。

市場から消えず安心して長く使える自然素材を
私たちが選択するのはそのためです。

眼下に錦江湾、その向こうに桜島を遠望する新居で
気取らない新婚生活を始めた川村夫妻。
彼らが求めた「秘密をつくらない家」は
多くの友人たちを呼び込む家である。

シンケンスタイルはライフスタイル③

川村邸

新しい暮らしと 自分発見。 家を建てるって、 そう、いうこと。

シンプル・アンド・コンパクト。
家の姿が2人のライフスタイルを象徴している。



坂

の町サンフランシスコも真つ青
くいくい登っていくと、眼下に広がる錦
江湾の夕景。そして目の前には西色に

染まる桜島の雄大な姿がそびえている。

川村さんの家の場合、建物はずさてお
き、まずこの桜島を誉めなくてはいい
ないのだ。

夫妻の桜島に対する想いは相当熱い。
鹿児島県人の鑑のような人たちである。
そしてシンケンの家に対する想いも熱
い！ だいたい結婚する前からデートの
時に家づくりの話で盛り上がるなんて
尋常ではない。

2月に結婚して、その年の7月には
新居に引っ越したという新婚のお2人。
「家づくりのスタートと2人のスタート
が一緒なんですと微笑む夫妻は、実は
ずいぶん前からお互いシンケンの家を
よく知っていた。

和彦さんが初めてシンケンの家を見
たのは4、5年前に伯父さんが家を建
てた時。スペースの活かし方や裏山の
竹藪を借景にした和室のつくり方を





見て、自分も建てるならシンケンで、と
思ったそうだ。

一方、朋美さんがシンケンの家を知ったのは、アナウンサーとして勤めるテレビ局で住宅をテーマにした番組のナレーションを担当した時、実際の建物は体験しなかったが、映像を見ただけで「このウチってすごい」と感じたという。別荘を思わせるゆつたりとした家と、そこに住む老夫婦の暮らしが、外と内がしっくりと馴染む自然な雰囲気ですっかり魅了されてしまったのだ。

「2人とも、こんな風に暮らしたいという人生の設計が、シンケンの家をベースにして始まっていたんです」と和彦さんは言う。僕は仕事柄、数年に一度必ず転動があります。でも、転動があるからこそ、マンションを転々とするんじゃなくて、拠点としての家が欲しかったんです。ただ生活する場所としてではなく、精神的な拠りどころとしての家です。」

鹿児島島の土、港、 桜島とともに生きる

建てるなら絶対に桜島と錦江湾が見える場所じゃなくちやいやだ、と2人は決めていた。

鹿児島出身の朋美さんは、就職後に東京で研修を受けていた時期、通りがかりに旅行社の前で桜島の写真を目にして突如こみ上げるような懐かしさを



桜島をバックにガーデンパーティを得つ七輪。

覚えたそうだった。毎日眺めていた時にはそれほど意識しなかったのに、離れてみて初めて桜島が自分にとって特別な存在であることに気づいたという。

指宿市出身の和彦さんも想いは同じ。将来子供が生まれたら、自分たちと同じように桜島と錦江湾を見て育ってほしい、子供にもここが自分の故郷と思える場所をつくってやりたいと考えていた。モデルハウスに行つて、改めてシンケンの家の良さを再確認したところ、偶然にもこの高台の土地が見つかった。もう、ここまでくれば後は実行あるのみだ。何軒か実際に住んでいるお宅を見学して具体的なイメージを固め、その後2人の暮らしをそれぞれ社長の迫さんに見てもらって、ライフスタイルについてや、持ち物の量、家に対する具体的な希望などを語り合った。

その際、話題にのぼったのは七輪を囲んでガーデンパーティをしたいことや、絵を描きたくなるような時間と場所が欲しいといった自分たちの夢が中心。「お客様のための部屋とか床の間はいらない」と最初から考えていました。遊びに来る人にも自分たちの暮らしをそのまま楽しんでもらえればいい。」

普段着の暮らしを見てみたい、でもそれは生活臭を感じさせられるものであつてほしくない。そこで、お風呂やトイレ、寝室や収納といった部分はすべて2階に持つていくことにした。

まさに景色がごちそう。
数十人の友人が押し寄せてもデッキがあれば大丈夫。



1階はリビングからダイニング、デッキへと開け放たれている。



ホテルのスカイラウンジにも負けない

1階はデッキに面したダイニングを中心にキッチンからリビングまですべて見渡せる開放的な空間となっている。もちろんダイニングのテーブルにつけば桜島が正面に眺められる。

「景色がこちそうですから、特別な用意をしなくても気軽に人を呼べるんです。招待するっていう気負いもいらず、仕事の帰りにちょっと来ない？ っていう

お気に入りの茶器で飾られた階段脇の収納スペース。

感じて読えます」

最近では、外で飲む回数が以前の10分の1に減ったそう。外食したくなるのは、場の雰囲気とかムードといった付加価値を求めているからであって、自分たちの家に異空間があれば、外で食事をする意味がない、とまでおっしゃる2人である。

2階のお風呂とトイレからの眺めも最高だ。トイレには壁厚を利用した小さな本棚がつくられており、ちょっとした読書コーナーとして活躍している。



落ち着いた内にも若々しさがある2階和室。
OM立ち下がりダクトの黄色、壁の紺色が
室内にアクセントを添えている。
黄色は明美さんの好きな色だ。

ドアのついた個室はこのトイレとお風呂くらい。なにしろテーマは「秘密をつくらない家」。子供が閉じこもるような個室はイヤだから、と家のなかを徹底してオープンにしている。

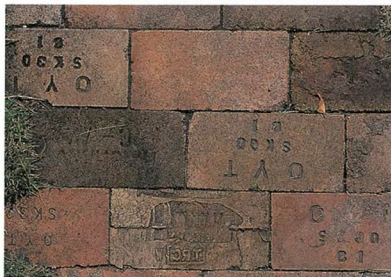
キッチンの収納について、畳の部屋を急遽追加するなど細かいところは別にして、建物についてはほとんどお任せだった。不安はまったくありませんでしたよ。どんなものができ上がるかとても楽しみに、ドキドキワクワクしてましたと和彦さん。最初のラフプランが気に入って、98%はそのままという川村邸だが、それは夫妻のシンケンに対する大きな信頼感があってこそである。

「社長は、なんとというか芸術家肌のところがあつて(笑)、途中でとんどん思いつきをプラスしていくんです。ここには間接照明を入れてみましょう、なんて依頼した以上のことをやってくれる。つくっている人が楽しんでるのがわかると自分たちも楽しいでしょう。家というよりも、一緒に作品をつくっている感じで、モノづくりの過程をともに体験できたという気がします」

自分の住む家を自らつくっている快感があつたというのは素晴らしい。その陰には、夫妻のふとした思いつきや細かい悩みを丸ごと引き受けてくれたという設計監理担当者の奮闘がある。朝に夕に数え切れないほどの電話を受け、ひとつひとつ対応していくという作業

北西窗外観。
こげ茶のコロニアルの外壁と植栽の緑。
開口部からのそく黄色のOMダクトの対比が美しい。

アプローチに敷かれたレンガは川村夫妻が集めたもの。



枕木を転用したアプローチ。
アプローチは訪問客や帰宅した川村さんが
気持ちを切り替える場所。

デッキから見た玄関まわり。
玄関からアルミの軽快な庇が大きく延び、人を呼び寄せる。





敷地脇のわずかなスペースで家庭菜園。



「実際に住んでみて、風の匂いや木の色、ケヤキの木に鳥が来ること、旬の野菜……これまで忘れていた季節や生活を敏感に感じている自分に気づきました。家庭菜園をやっているんですけど、サニーレタスやネギ、ピーマン、春菊、オクラ、ハーブ、いろいろ収穫したんです。そうしたら、小さい頃に母から庭のネギ取ってきよ、なんて言われたことをふと思い出したりして、それから郵便局の人が窓を「トント」と叩いて配達してくれて、汗をかいているのを見るとお茶を出してあげたくなったりして」

なんだか自分がいい人になったよな

は地味でなかなか表には出てこないものだが、こうしてこれだけ施主の心に残っているというのはうれしいのだ。

イーゼル上の朋美さんの絵。



和彦さんは自分の変化について語る。新しい暮らしの発見、そして新しい自分の発見。家を建てるって、そういうことだ。以前の、ドア1枚で外界とつながっていたマンション暮らしと比べると、なんという大きな変化だろう。外と内が一体になった家は、空間や景色を採り入れるだけでなくて、人も呼び入れてくれるのだ。

家は3度建てなくては満足はいくものは建てられない、と聞くが、川村さん夫妻は「もうこれ以上の家は考えられない」と口をそろえて言う(朋美さんの言葉を借りて言えば「チヨ」がつくほど気に入ってる)。2人のご両親もそれは同じだ。これまで、正月は和彦さんの実家で過ごしていたが、今度からはこの家に親兄弟がみんな集まることになっているそうだ。まさに人を呼ぶ家なのである。

KAWAMURA HOUSE

DATA

【建築概要】

川村邸

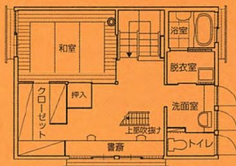
所在地 鹿兒島市日之出町
敷地面積 178.32㎡
建築面積 48.00㎡
延床面積 96.00㎡ (1階48㎡、2階48㎡)
建築率 50%
容積率 80%
用途地域 第1種低層住宅専用地域
竣工 1999年7月
家族構成 夫婦2人

主な外部仕上げ
屋根 ガルバリウム鋼板機葺き
壁 コロニアル仕上げ
建具 ローエン断熱サッシ
木製デッキ ※ヒバ目返し張り

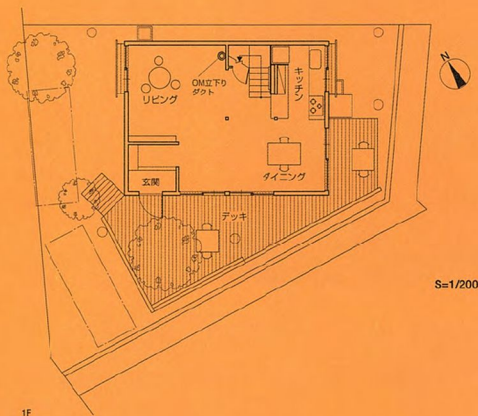
主な内部仕上げ
床 コルクタイル張り(1階)、
杉板張りオスモカラー塗装(2階)、
構造用パネルあらわし仕上げ(ロフト)
壁 構造用スプルース合板無塗装仕上げ、
一部ランバーコアAEP塗装
天井 構造用床パネル無塗装仕上げ、
一部プラスチックボードAEP塗装

主な設備
暖房 OMソーラー床暖房
給湯 OMソーラーお湯採り、およびガス給湯
厨房機器、洗面化粧台 シンケンオリジナル

2F



1F



今村邸は自然豊かな風景の中に建つ。

家のイメージは
「木造校舎」ほしかった

シンケンスタイルはライフスタイル④

今村邸

夫が望んだのは、
緑側で母家とつながる開放的な離れのある家。
妻が望んだのは陶芸のできる土間空間。
2人の思いは、のっぴな母家に開放的な平屋がつながる
ユニークな住まいとして結実した。



ボックス型の母家に
のびやかな下屋がつながる今村邸。
その美しいプロポーションは、
遠くからでも目に付く。

IMAMURA HOUSE

DATA

【建築概要】

今村邸

所在地 鹿児島県姶良郡加治木町
敷地面積 330.59㎡
建築面積 77.77㎡
延床面積 120.77㎡ (1階77.77㎡、2階43.00㎡)
用途地域 都市計画区域外
構造 木造2階建て
家族構成 夫婦+子供1人
竣工 1998年7月

主な外部仕上げ

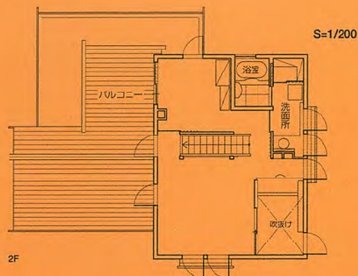
屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
壁 杉葺張り
建具 マーヴィン製断熱サッシ
木製デッキ 米杉目透し張り

主な内部仕上げ

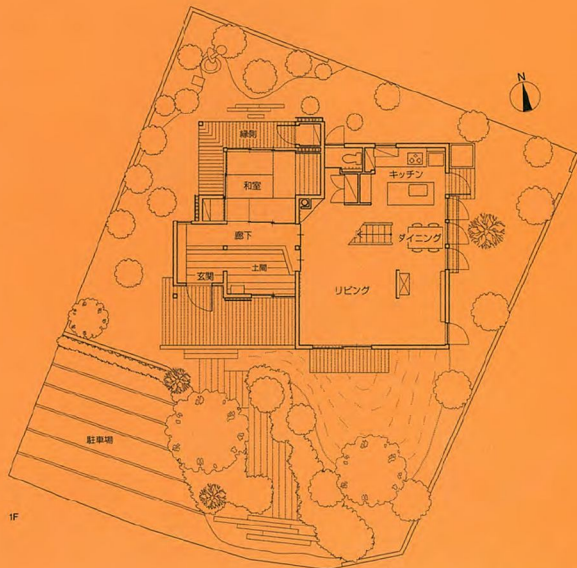
床 杉板張り(オスモカラー塗装)(1階)、
コルクタイル張り(2階)
壁 フォルクス構造用合板あらわし仕上げ、
一部ランバーコアにAEP塗装
下層部分はプラスターボードにAEP塗装
天井 フォルクス構造用床パネルあらわし仕上げ、
一部プラスターボードにAEP塗装
下層部分は杉板張り

主な設備

暖房 OMソーラー床暖房
給湯 OM給湯採り、ガス給湯
厨房機器、洗面化粧台 シンケンオリジナル



2F



1F





鹿

児島市内から車で30分ほどの加治木町。緑濃い山、しぶきを上げて落ちる滝を見ながら、畑の多いのどかな風景のなかをいくと、コスモスの揺れる今村さんの家が見えてきた。ボックス型の母家に在来工法の平屋の離れがくつittedアランは、洋風とも和風ともつかないユニークな姿で、シンケンの見学会のバスツアーでも好評を博している家だ。

離れの土間から出て「いらっしやい」と、にこやかに迎えてくれた今村さん夫妻。4歳になる風子ちゃんは大きなお父さんの足にまとわりついたまま離れようとしなない。今村さん一家は、教育委員会に勤める敬照さんと、養護学校の教員である奥さま、そして風子ちゃんとの3人家族。この家に住んで丸2年になるうとしている。

「以前は洋風の借家に住んでいたん

です。よくある典型的なフロアリングに白い壁という家で、夏は暑くて、冬は寒くて住みにくかったし、雰囲気的にも好きじゃありませんでした。その前に住んでいたのは、それとまったく反対の和風の家。縁側があって、板の間があって、どこか懐かしい感じのする家。そこのほうが2人とも性に合っていたようです。

風子ちゃんの成長や職場との距離を考え、引越しの話が持ち上がったのだが、また家を探して借りるのも面倒だからと思いついて建ててしまうことに決め、住宅関係の本や雑誌を山ほど買い込んで研究を始めた。

当時、敏照さんの職場には同じように家づくりを考えている同僚がいた。2人で情報交換をしたりしていたのだが、ある時その友人が教えてくれたのがシンケンの家である。

「2人ともお互いの趣味や考えをよく知っていたので、君にはあの家がいんじゃないか」と、勧めてくれたんです。早速2人で住宅展示場に出かけて、他のメーカーの家もいろいろ寄ってから、最後にシンケンのモデルハウスに入った時、もう「アアこれこれ！」とて感じて愛。

敏照さんと奥さまの心のなかにあった家のイメージは、木の家といつても、ログハウスやフロアリングの家ではなく、木造校舎だった。夫婦そろって教員だからかもしれないが、2人の頭のなかに

母屋の縁側の母と子。



離れの縁側で庭を眺める父と子。



は、使い込まれて黒光りしていく教室
や廊下の床が浮かんでいたに違いない。

本当の フリープラン

価格的に比較すればもっと安いメーカーもたくさんあった。でも、今村さん夫妻は他を検討することは一切考えなかったという。

「今の予算で建てられるシンケンの家はどのくらいの大きさか、というだけのことです。」

敏照さんはきっぱりと言い切る。さらに、シンケンを選んだ理由については、建物の内部の仕様が自由であることを挙げた。


「他の会社でフリープランといっても、どうでもいようなフリーでしかないけれど、シンケンの場合は箱は決まっていますが、中身は本当にフリーだから。フリーはフリーでも、建築家が建てるようなあまりにもフリーな（笑）家ができて、ちやうど心配もないし、かといって言われたままに建ててしまう町の工務店とも違う。両方を掛け合わせたような中間の良さがあるんですね。最初にいろいろお話しして、新しい家に対する夢はもちろんですけれど、これだけ詳細に自分たちのことを聞いてくれるなら、と会社に対する信頼感を強めました。」

敏照さんが新居でぜひ実現したかつ



隠れの土間から和室方向を見通す。
夏には涼しい風が通り抜ける。
まさにここは夏のための空間だ。





離れの和室から土間、玄関方向を見る。
暖簾のかかる左側が母家。境の間仕切りを閉めれば、
母家と離れを熱的にも縁を切ることができる。
季節に応じた住みこなしを意識した住まいだ。

たのは、緑側で母家とつながっているような開放的な離れを持つこと。そして、奥さまが望んだのは、将来やりたいと思っている陶芸のためのアトリエ的な土間。考えてみると、この2つに共通しているのは、両方とも屋根のある外的な空間ということだ。

2人の希望を聞いた設計スタッフは、日常生活を快適に過ごすための母家と、趣味的な離れを構造的に分けることを提案した。規格化されたパネル構法のフォルクスに対して、従来の在来構法は日本家屋特有の開放感や空間構成の自由さを得るにはびつたりの構法だ。ましてや「茶室のような部屋」が欲しい敏照さんの希望に沿うには、この在来平屋ドッキングプランが最良と思われた。

ガッチリ守る母家と オープンな離れ

でき上がってみると、このプランには予想以上の良さが隠されていた。

「離れは冬でもスースーしていて自然の気候のまま、こっちはしっかりと断熱されていて暖かい。夫は僅はすこい暑がり、妻は逆に寒がりなんです。だから、好みに合わせて楽しめるところがいいですね。僕は今年の冬は火鉢を買って、どてらを着て、庭を眺めながらんびりと……、正月なんて最高ですよ！」と敏照さんはうれしそう。一方、

離れと対照的な母家のリビングルーム。OMソーラーが冬でも足下から暖めてくれる。



奥さまは

「母家は冬、外が0℃でも部屋のなか
が20℃だったりして、うれしくてつい
いモーターで気温を見ちゃってます。晴
れていけば暖房なしで昼間の暖かさが
明け方まで持ちますから、朝、起きるの
が苦にならなくなりましたね。それに
暖房をつけないで済むので、空気が乾
燥する心配がなくなつたのも助かり
ます。子供が生まれてからずっと使っ
ていた加湿器もいらなくなりました」
と、ウォルタスの良さを強調する。

オープンなつくりの離れは、本当に
オープンで開けっ放し。座敷をL字に
囲む縁側も台風の時くらいしか雨戸は
閉めない。母家への入り口に施錠する
だけで土間も開放されているので、留
中に近所の人がとれたての野菜を

吹抜け空間の脇に設けられた仕事スペース。
吹抜けに面することで、開放感と落ち着きを併せ持つ。
狭いスペースの賢い利用例である。



置いていくれたりもするという。

離れの北側の庭は、苔の緑が目につ
みるしっとりとした純和風で、俳句で
も詠めそうな気がしてくるが、母家の
南側の庭やアプローチはガーデンング
という言葉が似合う明るい雰囲気、
そのギャップもまた面白い。

「ひとつの家のなかでそれぞれ自分が
好きなコーナーがあつて、いろんな表情
があつて、四季折々でいろんな楽しみ方
ができるのがいい」と敬照さん。

もうそろそろあせ道の柿の木が真っ
赤に熟す頃。春にはその隣の桜が満開
になる。夏は2階のデッキから加治木
の花火を眺め、またコスモスに埋もれ
る秋が巡ってくる。

「思い描いていた通りの暮らしです」
2人は満足そうに笑った。







画家とアナウンサーが暮らす坂井邸は、
動物が自分の体に合わせて巣をつくるように、
何ものにも代え難い居心地を今、創りつつある。

「創造の森」に
シュールな
棲む。

坂井邸

シンケンスタイルはライフスタイル⑤



坂

井邸は国際的に活躍する画家で風刺漫画家でもある坂井貞夫さんとアナウンサーを職業とする上野知子さんご夫妻が暮らす住まいである。訪問したとき、坂井さんはドイッ・ハノーバー万博に送る作品がちょうど完成して一段落付いた時であった。2人にまず案内されたのは、2階の坂井さんのアトリエ。その迫力に息を呑む。天井を高くしたアトリエ中に、坂井さんの数知れぬ絵画やオブジェが、様々な制作道具や素材と同居している。水道管の取っ手、タイプライターの部品、アルミ箔、ガラス玉、冷凍食品の発泡プラスチック、ありとあらゆるガラクタからなるオブジェたちが坂井さんから別の命をもらった異形の生物のようにひしめいている。アトリエは物言わぬ作品群によって訪問客の内面が逆に見つめられているような不思議な空間だ。「僕の絵はうまいんだけど不気味だ」とよく言われるんですよ。」

坂井さんがいたずらっぽく笑う。アトリエを魅力的にしているのは、そればかりではない。アトリエで使われる棚や椅子のほとんどは坂井さんのオリジナルである。1日の大半の時間を過ごすアトリエのなかでも長時間思索と制作に使われる椅子とテーブル周りは、工夫の宝庫。それ自体がひとつの芸術だ。赤い楕円のテーブルには新聞が大きく広げられる可動式の書見台が

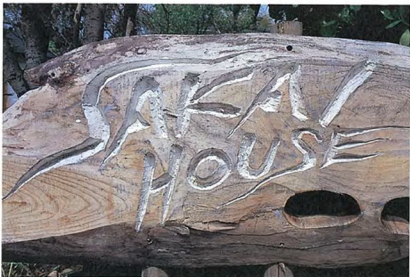
載っている。

「町で売っている机はどれもみんな四角。椅子も足が長すぎる。自分でつくるのが一番いいんです」

お2人がこの住まいに住まわれて1年が経つ。ようやく落ち着いてきたところだという。アトリエは作品保存のため西側を壁面で塞ぎ、東側に大きな開口部をとって自然光を採り入れている。北東側敷地境界に沿って川が流れ、川向こうの竹林の緑がまぶしい。ほとんど室内で制作作業を続ける坂井さんの場合、アトリエの環境は作品制作に大きな影響を及ぼす。この家に住むようになって自然からの刺激をたくさん受けるようになったという。それまでの深夜の制作も少しずつ昼間にシフトしてきている。

「雑草がはえるとすぐくっついていず、わっ！すごいと思つてね。それがいつの間にか抜かれてしまっんですね。こんなに開放されてあつちこつちから芽がいつはいつ出てきているのに何てことをするんだと思うんです。植物を自由にさせたら大変かもしれませんね。でも僕はそういう世界を自分の周りで見たい」

隣で上野さんがくすぐす笑っている。繁茂する雑草はこれまでのマンション暮らしと閉鎖的な空間で制作を続けてきた坂井さんの現在の心情と重なるのだから。



釘が自由に打てる家はいい！

お2人がこの家を建てたのは結婚ちょうど10年目、そろそろ生活のペースがほしいという時期であった。アトリエと住まいをひとつにし、生活の口を解消したいという考えもあった。最初、お2人は建築家に設計を依頼した。しかし、アトリエの内側は自分の個性でつくりたいという坂井さんと建築家の個性はどうしてもぶつかってしまう。

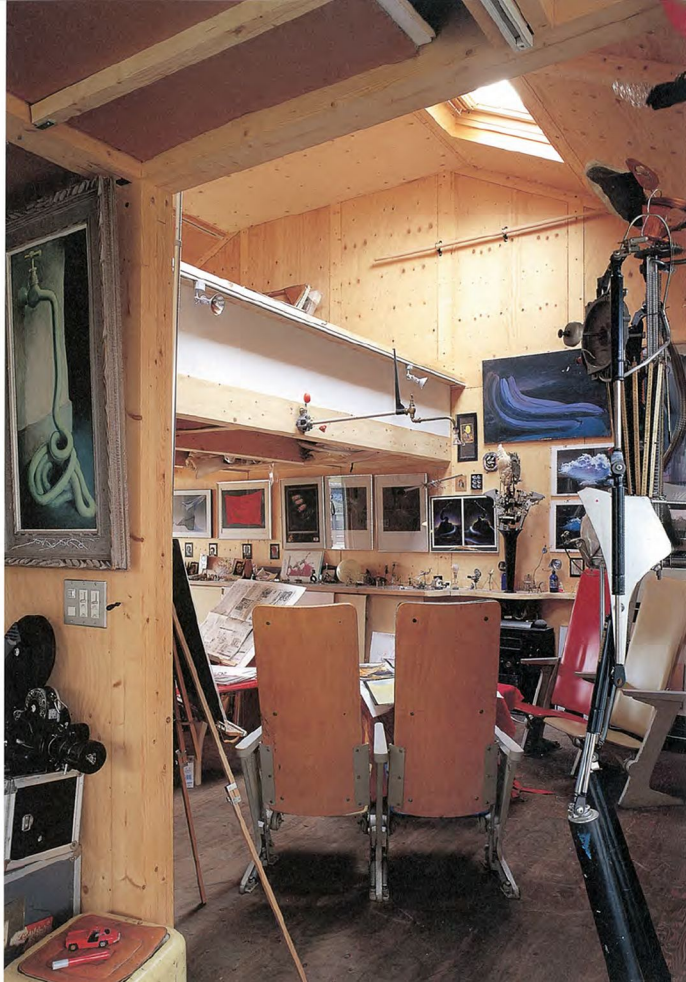
「建築家と1年ほどやりとりしたことが、かなり勉強になりました。そこで出した私たちの結論は、とにかくできるだけシンプルな家がいい。自分たちで仕上げていける家がいい」といつかだったんですと上野さん。2人はそれから1年前に見ていたシマンのモデルハウスをもう一度見に行くことにした。「対応してくれた営業の方が私たちのことを覚えていてくれて、落ち着かれましたから、聞くんです。落ち着いていないからまた来たんですよ」と答えました(笑)」

1年間の試行錯誤のなかでお2人の考えている家の条件、要望は明確なものになっていた。それは書き出ししてみるとレポート用紙24枚にもなった。

「面白い家をつくらう、楽しい家をつくらうだけでは現実には動かないですね。きちんと最初に資金面も含めて



アトリエの床は構造用パネルのままの仕上げ。



2階のアトリエでつくる坂井夫妻。
坂井さん手づくりの赤い作業テーブルが目を引く。







お話ししよう。1年間を決してむだではなかったんです」

お2人が考えた家の条件のうちもっとも象徴的なものは釘が自由に打てる家であるということであった。住まい手が自分たちの個性でつくり上げていける余地のある家。シンケンの住宅はまさにそのために開発された住宅なのである。

暮らして 合わせた居心地

坂井邸は南北に長い敷地の南側にカーポートと家庭菜園のスペースを取り、北側に寄せて1階の住空間に2階のアトリエが重なっている。アトリエへの訪問客が多いため、2階への階段を玄関近くに取ることで、アトリエと住空間を明確に分けている。

1階の住空間は機能的で、しかも開放的なプランになっている。アトリエと同様、縁の多い東側に大きな開口部を取り、そこに生活の中心となるリビングとダイニングを配置している。昼間曇っていても照明が要らないように、リビングにはトップライトが設けられている。開放的な対面式のキッチンに立てば、借景を楽しみながら料理をつくることができ、広いデッキは天気の良い日にはダイニング、リビングの一部になる。デッキは愛煙家のお客にも好評です。と、煙草を吸わないご夫婦は笑う。



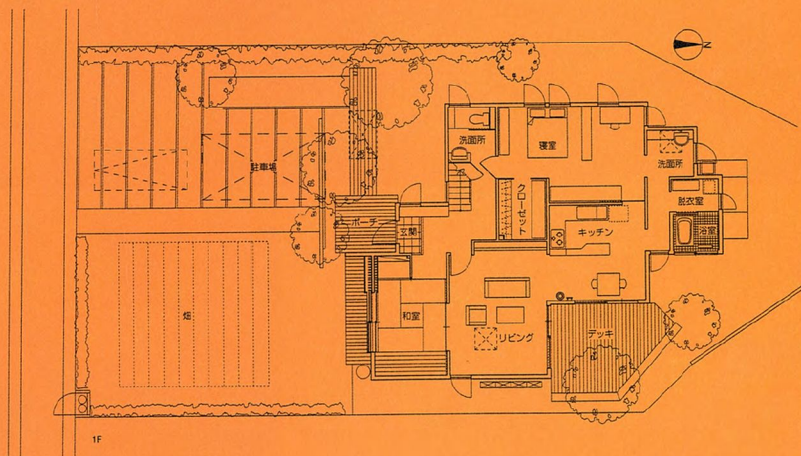
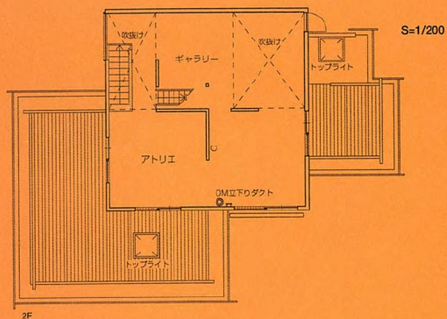
動物が自分の巣を自分の体に合わせ
て居心地よくつくっていくように、坂
井邸は今、ご夫妻の身体の一部になり
つつある。

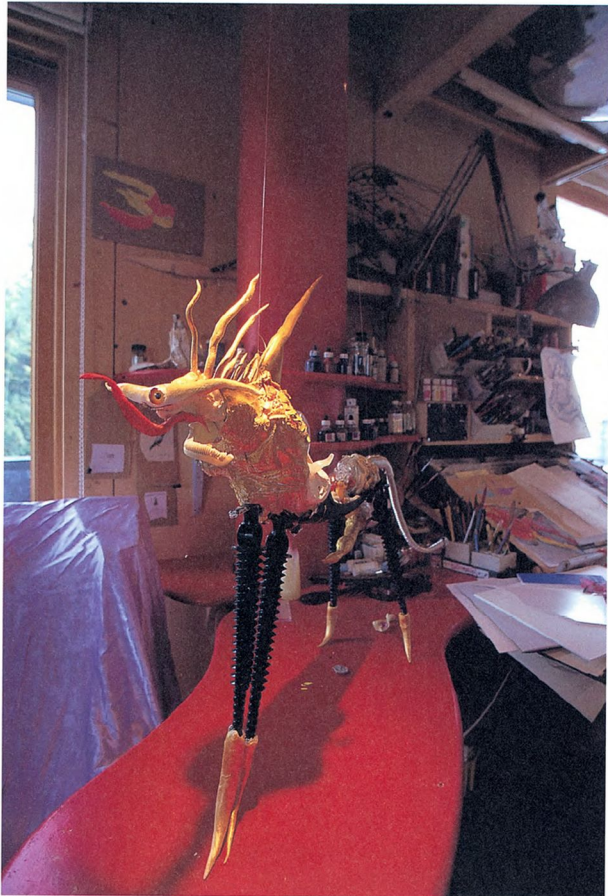
「私は外の仕事が忙しいので、リラック
クスできるほっとする家にしたかった。
夫は家にもっと仕事をやるから居心
地のいい空間がほしい。仕事の場は
両極端ですが、住まいに求めるものは
いっしょなんです」と、上野さん。

リビングの南側、菜園に面して明る
い和室が設けられている。菜園に張り
出した縁側は野良仕事の一休みに最適
だ。リビングと和室との間に段差を設
けないバリアフリーの工夫が見られる。
寝室の横に配置されたゆったりとした
洗面所にもトップライトが設けられて
いる。アナウンサーである上野さんが
自然光のなかで身支度ができるよう
にという心憎い工夫である。

トップライトと大きな鏡の設けられた明るい洗面室。







SAKAI HOUSE

DATA

【建築概要】

坂井邸

所在地 鹿児島県始良郡始良町
 敷地面積 383.2㎡
 建築面積 110.00㎡
 延床面積 172.00㎡ (1階108.00㎡、2階64.00㎡)
 建築率 50%
 容積率 80%
 用途地域 第1種低層住宅専用地域
 竣工 1999年6月
 家族構成 夫婦2人

主な外部仕上げ

屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
 壁 漆喰仕上げ(1階)
 サイディングにキシラテコーラ塗装(2階)
 建具 ローエン製断熱サッシ、他
 木製デッキ 米杉目透し張り(無塗装)

主な内部仕上げ

床 赤松板張り、オスモカラー塗装、一部畳敷き(1階)、
 構造用パネルの上にフトコオイル塗装(2階)
 壁 構造用スプルス合板あらし仕上げ、
 一部ランバーコアAEP塗装、
 和室はスプルス合板の上に和紙張り
 天井 構造用床パネルあらし仕上げ、
 一部フラスターボードAEP塗装
 和室は杉板張り

主な設備

暖房 OMソーラー床暖房およびOM補助暖房
 給湯 OMソーラーお湯採り、およびガス給湯
 厨房機器 サンウェブ、シンケンオン|ジナルフード

OMだからこそその 吹抜け空間。

コンパクトな空間を広々と感じさせてくれる吹抜け空間。
でも床暖房がなければ暖められた空気は全部2階に上がってしまい、
広いリビングは冬の間、寒々とした空間になってしまいます。
1階と2階の温度差のないOMソーラーだからこそ
吹抜け空間の効果を十分活かせるのです。

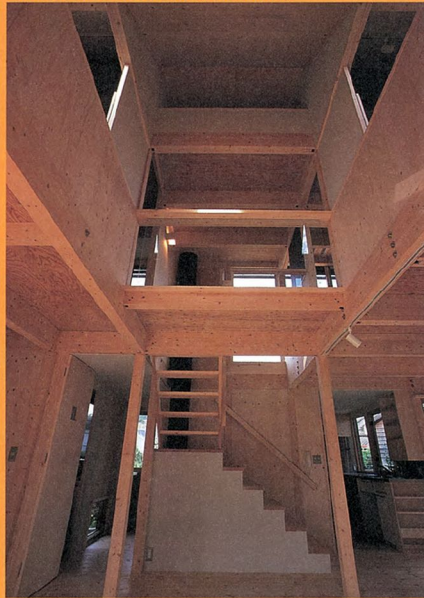




2階と1階リビングをつなげる階段。階段は家族のコミュニケーションを深める。



二階のそれぞれの部屋からリビング中央につながる階段。



階段はプランニングの要。

階段を住まいのどこに計画するかで、人の動きは決まります。

2階から下りてきた子供たちがすぐに家族の会話にとけ込めるようにすることもできます。

階段は家族のきずなを深める、まさにプランニングの要です。

明日に向かう階段。

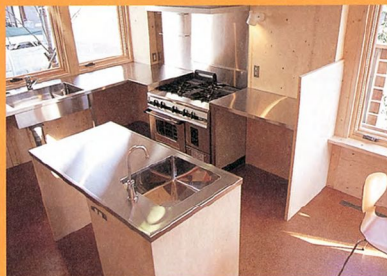


ダイニングにいる家族と対面できるアイランド型キッチン。これもシンケンオリジナル。



キッチンオリジナル。

シンケンは台所のアイデアに合わせて
どんなキッチンもつくることができます。
しかもシンプル・アンド・クリーン。
あなただけのオリジナルキッチンです。



天板とワゴンの組合せによる機能的なキッチン家具。



植栽を活かし視線を遮れば、町なかでも露天風呂の気分を満喫できる。

太陽の恵みでお風呂に入る。

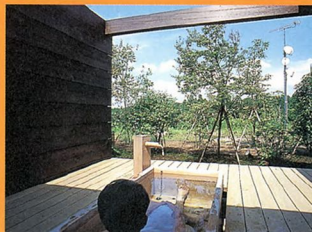
1軒の家で1年に消費するエネルギーの約3割は給湯用。

でもOMソーラー装備のシンケンの家では

それを太陽のエネルギーでまかなうことができます。

春から秋にかけて30～50℃のお湯を1日に約300リットル得ることができます。

太陽の恵みでお風呂に入って、心も体もリラックス。



設備メンテナンス用の点検扉。
普段は制御盤の表示部分だけが壁からのぞく。



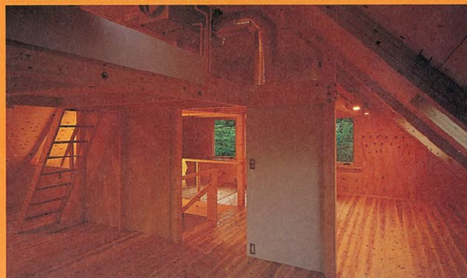
しかも点検しやすいようにレイアウトするのにもデザインのうち。
OMソーラーを装備するシンケンの家では、
普通の家にはないOMハンドリングボックスや立ち下がりダクト、
それらの機器や配管、配線類を美しく、
制御盤などが付きます。

設備のレイアウトもデザインのうち。



木造開放しの室内に
OM立ち下がりダクトの色が映える。

ロフトに整然とレイアウトされたOMハンドリングボックスとダクト、配管類。
OMソーラーだけではないが、設備を隠さず、
美しく見せるには細心の注意と美意識が要求される。





時間とともに 美しくなる住まい。

木造打放しのシンプルなインテリアが特徴のシンケンの家。
時間が経つほどに室内は艶色に変わっていきます。
住み始めた時よりも10年後が美しい家、
長い使用に耐える家でありたいとシンケンでは考えます。

5年後のインテリア。
木部は色を増し落ち着いた感じになっている。



シンケンスタイルQ&A

シンケンスタイルはコミュニケーション①

町のなかでも住宅展示場においても、
シンケンがつくる住宅は隣の住宅と
ずいぶん異なるスタイルと雰囲気を持っています。
それは住まいづくりの考え方や方法がまるで違うからです。
では、その考え方や方法とはどんなことなのでしょう？
気になるシンケンスタイルをQ&Aでまとめてみました。

Q
&
A

モデルハウス：
〒890-0062
鹿児島市与次郎2丁目KTS住宅フェア内
TEL.099-253-6888



Q シンケンスタイルの住宅を どうしたら直接見ることが できますか？

A シンケンのモデルハウスが常設
されています。またお客様に引
き渡す前の新築した住宅を見ていた
く現場見学会を各地で開催してい
ます。モデルハウスや現場見学会に
来ていただき、担当の者に気軽に
声をかけてください。

OMソーラーの仕組みやシンケンの
考える家づくりについて実物を見て

いただきながらお客様の時間の許す限
りじっくりご説明しています。モデル
ハウスや見学会に行ったら、立って見
て回るだけではなく、ぜひ和室では座
り、ソファに腰をかけてみてください。
立っているのでは、室内の見え方が
違います。

和室での落ち着き、リビングでの広々
としたゆったり感を実感してください。

上：バスツアーのメリットは、
シンケンの住宅に住んでいる人の話を直接聞けること。
下：建物見学では実際にソファに座ってみると、
シンケンのプランニングの確かさが実感できるはず。

Q バスツアーという催しもあると聞きましたが、それはどんな催しですか？

A これもシンケンの建てた住宅の見学会ですが、実際に住まわれていらつしやる家を訪問するのがバスツアーの特徴です。住まいは暮らしの器ですから実際に日用品が置かれ、住みこなされた状態でないと、その住まいの良さや活かされ方がなかなか理解できないところがあります。このツアーに参加していただければ、実際に住ま



われている方たちの恐ろしい声を直接聞くことができます。またシンケンスタイルの家をどのように上手に住みこなしているか、参考にすることができます。バスツアーは毎回コースが変わります。できれば何回かバスツアーに参加して数多くの住まわれ方を見ていただければと思います。



Q 「住まい教室」も催されていますね。

A 「住まい教室」は住まいづくりというお客さまにとって大きな事業のための情報収集の場所と考えています。話を聞くだけでなく、実際に見学したり、触れたりしながらお客さまが自分にとって本当に心ざわしい住まいづくりを発見するための教室です。この教室は4回で完結するようになっていて、そ

の内容は第1回「敷地の読み方とプランの考え方」、第2回「家づくりにかかる費用と資金づくり」、OMソーラーのしくみと動き」、第3回「建物の強度と耐久性」、第4回「建物見学会」などといった具合です。堅苦しい講義ではありませんので、お友達とお茶を飲むように気軽に参加していただければと思います。

上：住まい教室では施工中の住宅にも訪れ、OMソーラーの仕組みやフォルクスハウスの特長を知ることができる。
下：住まい教室で基礎のコンクリート打ちの現場を見学する。



AQ シンケンのモデルハウスやバスツアーには、何回も来られる方が多いと聞きました。

はい、その通りです。私たちはそれを歓迎しています。その理由は、シンケンが考える「家づくり」は単に作られた「家」を選ぶのではなく、「家づくりの方法」を選んでもらいたいと考えているからです。

またOMソーラーを装備したフォルクスハウスであるシンケンの家は、一般の住宅とはかなり違ったところもあります。一回のモデルハウス見学やバスツアーでは、どこかひっかかるところがあったとしても当然かもしれません。展示場の他のモデルハウスには目もくれず、まっすぐシンケンのモデルハウスに何度も足を運んで来られる方がいます。バスツアーを心待ちにし、住まい手の本音の話を食い入るように聞いている常連のお客さまもいます。

私たちは、そうした時間が、将来お客さまがシンケンの住宅に実際に住まわれて満足していただくためにかける暇のない時間だと考えています。

「家づくり」は住まい手と作り手の共同作業です。家づくりが成功するためには、住まい手と作り手が「家の設計において大事なことは何か」という点について共通の認識に立つことが大切です。シンケンの住まいづくりの特徴を知っていただき、私たちはお客さまの望むライフスタイルを理解する。そのためにはシンケンは時間を急ぎません。十分検討していただき、気に入っていただければ資金計画のシミュレーションに入ります。資金計画に無理がないことがわかれば、いよいよプランニングの開始ということになります。

使いこまれた幾つもの型紙。
住まい手が計画の全体観を理解する上で大役に役立つ。



Q お客さまから住宅を依頼された時、まず何から仕事を始めますか？

A 私たちの仕事は、敷地の現状を知ることから始まります。重要なことは敷地の周辺がこれからどのように変わっていくかを間違いなく推測することです。例えば、隣地が新築であれば周辺の環境は急激には変わらないと判断できます。変わらないものに対しては、それがあまり条件のよくない環境だとしても解決する方法があります。

と「ミニ」が、空き地だと、これからどうなるかわかりません。隣家が老朽化しているときも要注意です。増改築や新築が近い将来予想されるからです。その場合は隣接した土地に何がどういう形でできる可能性があるかということをご想定する必要があります。様々な法規上の制限から、これ以上は高くできないだろうとか、敷地境界のどの辺りまで

隣家の壁がくるだろうか、また車庫はどの辺りにできるだろうか、予想しておく必要があるわけです。敷地を測量する時には必ず隣家の外壁や窓がどこにあるか、その窓はイシの窓か、居間の窓か、台所の窓かといったことを図面に記録しておきます。住宅の多くは北側にトイレやキッチン、浴室の窓がくることが多いわけですが、南側の隣家にそうした窓があっても、自分の家の南側窓をそれに相対して開けている家が多いのはどうしたことでしょ。都市部の狭い敷地で隣家の便所の窓をいつも眺めているようなリビングをどうして設けてしまうのか、私たちには理解ができません。これではほんどゾーニングというものを考えていないといわれども仕方がないのではないでしょうか。

Q シンケンの家は敷地に平行に建っていないことも多いですね。それは何故ですか？

A 太陽の光やエネルギーの恩恵をもっとも有効に活かすことを念頭において、敷地に対して家をどう配置するかを常に考えているからです。敷地の境界線に平行に住宅をつくるという意識はありません。シンケンがつくる住宅はすべてOMソーラーを装備しています。太陽のエネルギーや自然光を四季を通していかに有効利用するか

を決める上でとても重要なテーマです。例えば、屋根や開口部を真南に向けていれば正午の太陽光が直角に当たることになります。西側に少し傾ければ午後の光が多く当たります。冬の間、OMソーラーのために太陽光を利用しようとする、蓄熱のヒークを正午より少し午後遅らせたほうが、夜間から

決める上でとても重要なテーマです。例えば、屋根や開口部を真南に向けていれば正午の太陽光が直角に当たることになります。西側に少し傾ければ午後の光が多く当たります。冬の間、OMソーラーのために太陽光を利用しようとする、蓄熱のヒークを正午より少し午後遅らせたほうが、夜間から



図1 季節によって日の高さはこんなにも違う。
軒の出や南側に落葉樹を植えたりすることで、冬の間は日室内に取り込み、夏の間は日を守るのがプランニングの原則です。

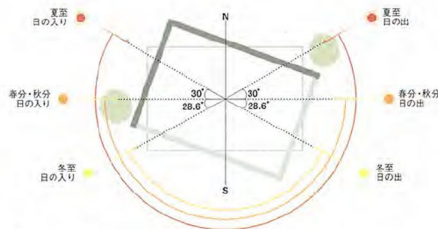


図2 季節によって日の回り方は大きく異なる。
家の配置計画はそのことを考慮することが基本です。

AQ シンケンの家づくりでは植栽計画がゾーニングの段階で必ず盛り込まれていますね。それは何故ですか？

家全体のバランスをとるために最初に植栽計画を立てておくことはとても大切なことです。逆にいえば、植栽を施すことで家全体のプロポーションを整えることができるのです。外から見て美しくない家が内部だけ美しいということはあり得ないと、シンケンは考えます。

例えば、植栽計画と住宅の開口部をどこに設けるかという問題は密接に関連します。植栽によって、夏の直射日光を遮ることや風の通り道を工夫しますし、隣家との視線を遮ることも考えます。また大きな木が欲しい場合は、

家全体のバランスをとるために最初に植栽計画を立てておくことはとても大切なことです。逆にいえば、植栽を施すことで家全体のプロポーションを整えることができるのです。外から見て美しくない家が内部だけ美しいということはあり得ないと、シンケンは考えます。

例えば、植栽計画と住宅の開口部をどこに設けるかという問題は密接に関連します。植栽によって、夏の直射日光を遮ることや風の通り道を工夫しますし、隣家との視線を遮ることも考えます。また大きな木が欲しい場合は、

シンケンは雑木林のなかに家があるというイメージ、住まいの佇まいを大切にしています。春の芽吹きや小鳥のさえずり、夏の木陰や葉擦れの音、秋の落ち葉、そうした自然の風情、季節感を感じながらの暮らしを楽しみたいよう。シンケンの家づくりではカツラ、クスノキ、ヤマボウシ、ハナミズキ、コナラなどの落葉樹を上手に使うことを心がけています。

翌日の朝方の暖房利用により有効です。そのことを詳しく説明しましょう。太陽は東から昇って西に沈むと考えがちですが、実際は夏と冬では大きく違いがあります。夏至の日の出は東から30度も北寄りから上がって、西から28度も北寄りに沈みます。これに対して冬至の日の出は東より南に28度寄っていますし、日の入りは西より30度南寄りです。家の配置を図2のように東・南面を開放的に、北・西面を閉鎖的にすると、冬の間は太陽高度は低いので、朝から夕方まで日が十分に家のなかに入ります。一方、夏の厳しい朝夕の日射しを守ることができます。

新築当初の春の庭(上)と3年後の夏の庭(下)。植栽計画は時間のデザインである。



シンケンの家づくりでは植栽計画が必ず盛り込まれている。



Q シンケンの外構計画ではあまり高い塀で囲いませんね？

A シンケンスタイルの家づくりでは、敷地境界を高い塀で囲うという考え方を基本的にしません。視線を遮る必要があるときは、目透かしの板塀

や植栽を工夫することで考えます。住

まいの外構計画は、植栽計画も含めて住まいづくりであるとともに地域の環境づくりであると考えているからです。

Q シンケンのつくる家は「フォルクスハウス」だと聞きましたが、フォルクスハウスってどんな家ですか？

A フォルクスハウスは工場で厳密につくられた部材部品を現場で組み立てる、工業化された木の家です。性能の高い安定した品質を部材に求めるためには、設計システムの標準化は必要不可欠なものです。フォルクスハウスの場合、そのシステムは建築の専門家だけでなく、住まい手にとっても、どのような部材が、どのような理由から選ばれ、またどのように組み立てられるかが明解に示されていることに大きな特徴があります。フォルクスハウスは「木質軸組パネル工法」という構造システムでできています。柱・梁には集成材を用い、床、壁、屋根にパネルを用いていることからこう呼ばれます。この集成材は十分乾燥されたスウェーデン製の集成材で、集成材を用いることで材料ごとの強度のばらつきをなくし、製品としての性能の安定を図っています。軸組の接合部には独自の金物が使われていますが、こうすることで、軸組材の断面欠損を最小限に

抑え、集成材の持つ強度を最大限に発揮させることができます。外壁は木製の枠組みの内部にグラスウールをサンドイッチし、両面に合板を張った気密断熱性能に優れたパネルを使っています。また屋根はOMソーラーシステムを装備するフォルクスハウスにとって、特に断熱性能が要求される部位ですが、断熱性能の優れた丈夫な屋根パネルが使われています。

や植栽を工夫することで考えます。住まいの外構計画は、植栽計画も含めて住まいづくりであるとともに地域の環境づくりであると考えているからです。

施工途中のフォルクスハウス。







生活をより楽しむためのデッキ。



Q シンケンの家づくりでは
デッキが多く用いられています。それは何故ですか？

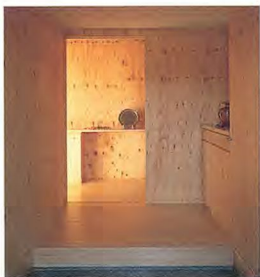
A 住まいは家族の休息の場であり、明日への活力を養う場です。住まいにとって開放感があるということ、深呼吸ができる場であるということは、不可欠の条件だと考えます。開放感を得る上で、住まいの内と外をつなぐ緩衝空間のようなデッキは有効なスペースです。デッキを有効に使うためのヒントは、デッキは室内に近くなければいけないということです。そのためには家はコンパクトなほうがいい。コンパクトな家を広く使う時、デッキの魅力が十分に引き出せます。例えば、台所

がデッキとダイニングの真ん中にあるようなプランを考えたと、朝日を浴びながらのデッキでの朝食や木陰でのモーニングティーを楽しむといったことが容易にできるわけです。なかにはデッキが腐ることを心配されるお客様がおられますが、耐久性は思った以上にあります。それにデッキはあくまで生活を楽しむためのものですから、腐るからといってセメントで固めてしまっただけは本末転倒です。道具であれば手入れをする必要もありますし、それがひとつの楽しみになってくれればと思います。

Q 玄関がシンプルなのは何故ですか？

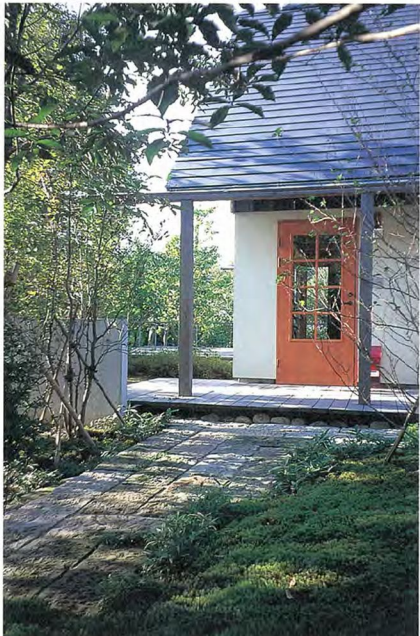
A 住宅展示場に行くと、立派な広い玄関のついた住宅を多く見かけます。けれどもよく観察すると、他のスペースがそのしわ寄せを受けていることがわかります。特別な大邸宅は別にして、規模の限られた一般の住宅では大きな玄関は必要ありません。それよりも訪問客や帰宅した家族を優しく迎え入れてくれるような玄関が望ましいと、私たちは考えます。また玄関自体のスペースよりもその脇に外から持ち込んだ物を収納できるスペースがあることが重要です。コートや靴の収納スペースは当然ですが、それ以外にもう少し

大きなものを納めることのできる納戸のようなスペースがあると便利です。シンケンにはコンパクトで機能的な玄関を旨とし、その分、リビングスペースなどに余裕をもたせるようにしています。



コンパクトで機能的なシンケンの玄関。

玄関まわりはその住まいの表情がもっとも現れるところ。さりげなく、しかも魅力的な玄関にしたいものである。



A Q 敷地とリビング、 窓の関係はどのように考えていますか？

A 住まいのゾーニングは基本的に玄関から始まり、パブリックなゾーンからプライベートなゾーンへとつながっていきます。そのつながりからするとリビングは1階ということになります。実際は2階にもつていくことも多いのです。リビングを1階に設けるか、あるいは2階に設けるかの判断は、周囲の環境によります。可能ならリビングは広く、室内も室外も見通せるように設けたい。ですから隣家が南側に迫っている場合はリビングを無理に南側につくるようなことはしません。敷地を読み込み、いちばん居心地のいい場所にリビングを設けます。窓をどこに設けるかによって、室内の居心地、雰囲気、環境は大きく左右されます。明るい部屋にもなるし、暗い部屋

にもなる。あるいは明るくても落ち着かない部屋にもなる。ゾーニングの段階で、周囲の環境で活かせるスペースと捨てるスペースをよく考えを必要があります。見たくない部分は外部に塀を設けたり常緑樹を植えて視線を遮断した上で、塀の内部を家のなかに取り込むように工夫する。また、外部を取り込むといつても、何を取り込むかによって、開口部の考え方は当然違ってきます。風景を取り込むのか、光を取り込むのか、日射しを取り込むのか、風を取り込むのか、開口部の使い分けが大切です。窓の開け方がその家のプロポーションにもなるわけで、窓の位置、大きさ、方向、取り込む外部との距離感など、開口部はシンクンの家づくりのなかでもっとも神経を使うところのひとつです。

Q シンケンのつくる家の窓は、どれも高性能だと聞きました。

A 壁や屋根の断熱性能を上げて、も開口部の性能が劣っていても室内の温熱環境をコントロールすることはできません。多くの住宅の場合、熱の逃げ道のほとんどは開口部からなのです。わたしたちが用いているサッシ

はカガダ製の木製複層ガラス入りサッシです。この木製サッシはアルミサッシのような冷たさもなく、木の質感とマッチし、しかも気密、水密、風圧、断熱のどの性能とも申し分ありません。

Q 階段を「家族のきずなを深める所」と捉えているのはなぜですか？

A 階段が家のどこにあるかという問題は、プランニングのなかでも重要なテーマです。住宅展示場に行くと、広い玄関の横に映画のシーンに出てくるような階段がありますが、普段家族が集まる場所と階段がかけ離れているのは、問題だと私たちは考えています。なぜなら2階が近くに感じるか、あるいは2階に上がることをおっくうに感じるかは、階段が住まいのどこにあるかで決まるからです。2階から

下りてきたとき、その場所がどういう場所かということが大切です。パブリックなゾーンからプライベートなゾーンにあるいはその反対にプライベートゾーンからパブリックなゾーンへ意識を切り替える手段としての階段、階段を下りながら自然に家族の輪に入っていくような階段がいい。特にコンパクトな住宅においては階段スペースは無視できない空間ですから、デッキと同様リビングの一部として考えたいと思います。

階段もリビングの一部。



プラスチックのサイディングでは、決してまねのできない自然素材の風格。



Q シンケンのつくる住宅では外装に自然の素材が使われています。耐久性に心配はありませんか？

A シンケンには外壁に自然素材、特に杉板を使います。外壁材に求められる性能は耐久性です。この点については誰も異論がないはずですが、しかし耐久性とは何か？ということになると、考え方に大きな差が出てきます。耐久性とは腐らないことだと理解している住宅メーカーや工務店がほとんどです。住まい手の多くもそう考えています。しかし、シンケンの考えは違います。

シンケンには「耐久性とはメンテナンスがいつまでもできることだ」と考えます。市場に出回っている腐らない新建材を外壁に使用しても10年、20年経てば必ずどこかに不具合が生じてきます。永久にメンテナンスフリーということはありません。

これはあり得ないからです。そのときに同じ製品の在庫が果たしてあるでしょうか、それは大変疑問です。流行の

新建材を避けて、安心して長く使える自然の素材を私たちが選ぶのは、そのためです。木材は外壁として長持ちしないと考えられがちですが、最も安心して長く使える材料は木材なのです。

長い年月、風雨に晒されて木目が洗い出された素地の板張りには、プラスチックのサイディングでは決してまねのできない、自然と時間がデザインした風格さえあります。こうした自然の素材の美しさを見直したいと、私たちは考えます。木材以外にもガルバリウム鋼板やコロニアルを外壁に使うことがあります。これらの素材もメンテナンスの信頼性や自然素材に近いテクスチャであるという理由から選んでいます。

シンケンの住宅では床材に杉、赤松、パイン、コルクといった無垢の床材を5、6種類厳選して、そのなかから住まい手に自由に選んでいただくようにしています。合成樹脂で固めた合板のフローリングは使いません。あくまでも無垢の床材にこだわります。その理由は、使い込んで傷がついても無垢の床材の場合は、その傷も一つの味になりますし、何十年と使って表面が汚れても皮磨きをかければ、また新しい命が蘇ります。合板のフローリングではそうはいきません。

上：地窖のある和室。
下：火山の生成物を原料とした「産摩中霧島壁」で仕上げた和室の壁。

Q シンケンの住まいは洋室が多いように感じますが、和室をつくることもできますか？

A もちろんです。シンケンの住まいのインテリアは「すっぴんの木」ですから、畳や紙、土壁のような素材にもともとマッチしやすくできています。自然のやさしい種やかな和室をつくることができます。フォルクス

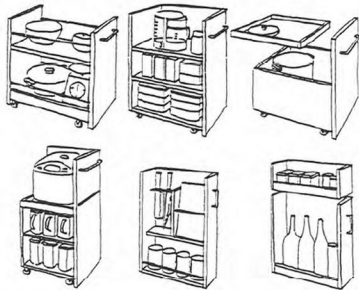
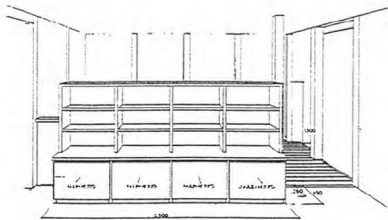
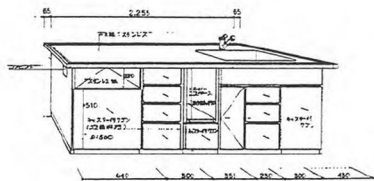
ハウスは4メートル四方のスペースを基本単位として考えていますが、これは京間8畳の広さよりやや広い程度で広さです。和室に限りませんが、一般の住宅よりゆったりした空間を感じるはずです。



Q 内装はいたってシンプルですね？

A 住まいは長く使っていくことが前提です。内装のあり方もそこから考えていくべきです。壁には音から視線まできっちり遮断する壁と、視線を仕切るだけの軽い間仕切りがありますが、シンケンデザインでは軽い間仕切りは白いペイントを施したり、和紙を張ったりします。そうすることで、

ラフなテクスチャアの壁に、部分的なアクセントの効果をねらいます。ペイントは汚れたら上から繰り返し塗ることが簡単にできますし、和紙も張り替えが簡単です。住まいを長く使っていくためには、そうした張り替えや塗り替えを住まい手が容易にできることが望まれますし、住まい手が自ら手入れ



上：アイランド・キッチン1例。
中：下半部をキャスター付きワゴンにした本棚の1例。
下：一軒の住まいのためにつくられた、様々なオリジナルワゴンと収納棚。

をすることで住まいへの愛着は深まっていきたいと思います。ですから、私たちは新築時に過剰な内装を施すことはしません。入居後に室内をどのように設えていくかは住まい手にまかせ、

私たちはあくまでもそれをお手伝いする脇役です。住まいを着慣れた衣服のように居心地のいいものに仕立てていくのは、あくまでもそこに住むあなたなのです。

Q 内装は控えめですが、それとは対照的に収納家具やキッチン家具は住宅に合わせてオリジナルにたくさんつくっています。それはなぜですか？

A シンケンがオリジナルにたくさん家具は基本的に動かさない家具です。住宅のプランの打合せをお客様と進めていくなかで、提案事項として、もしオリジナルの家具をつくるのであれば、どの場所にどのような家具を置きたいか、詳細に話めています。最初のお客さまへのプラン提出の段階でおおまかなところは書き込みます。キッチン家具については、メーカーの製品を

使うことはほとんどなく、大概はその家のキッチンのアイデアに合わせてオリジナルに作り出します。キッチンは特に使いになる方の思い入れの強いところですので、細かいところまでご要望にお応えしています。シンケンのオリジナルキッチン家具はシンプル・アンド・クリーン。従来の箱形家具ではなく、天板とワゴンの構成になっているため清潔で清掃がしやすいと考えられています。

Q 他の収納家具についてはいかがですか？

A 住まいの収納力を心配されるお客様は多いですね。お客様の要望にそってオリジナルの収納家具をデザインしています。その場合も住まい

です。不要なものを押し込む場所ではありません。

手の将来の住まい方の変化を計算に入れながらご相談します。かつて押入をたくさんつくってほしいという要望を受けたことがあります。そのお客様は押入に何でもかんでもしまい込むつもりだったようです。収納家具はあくまで日常使うものを出し入れするところ

私たちのつくる住宅には多くの場合、ロフトを設けてありますから、普段使わないものはロフトに整理してもらうことが基本です。ロフトを昔の倉のように利用してもらえればと思います。寝具にしてもシンケンのつくる住宅にはOMソーラーが装備されていますから厚い布団は不要なのです。冬でも毛布で十分過ごせるのですから。

Q シンケンは照明計画でラインダクトをよく使います。それはなぜですか？

A 多くの住宅では部屋の真ん中に照明器具がひとつぶら下がっていることがほとんどです。そのことによつて部屋の使い方を限定してしまっています。照明器具の位置を将来、自由に変えることができるように、部屋の使い方を限定してしまわないように計画することが大切です。そのためにシンケンではよくラインダクトを利用

します。それともうひとつ照明計画で重要なことは、室内のどこもかしこも明るくしてしまわないように注意することです。あかりは暗さがあってはじめて美しいものです。食事のベンダント、ダウンライト、フロアスタンドなどを上手に使った明暗のパランスのとれた照明計画は、夜間の室内を魅力的なものにしてくれます。



SINKEN
STYLE
Q
&
A

右：夕景のなかの食卓の温かな光。

左：リビングにはダウンライト、
食卓にはペンダントがバランスよく使われている。



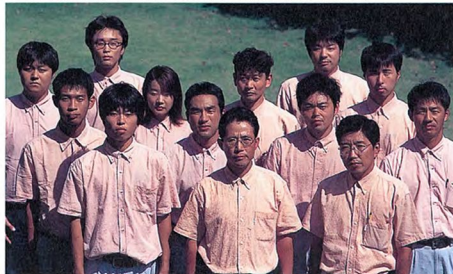


セントリコン®ステーションを地中に埋め込みだけ。

シロアリの不安から解放する 新時代の画期的シロアリ防除法 セントリコン®システムをお勧めします。

従来の薬剤散布では、地中から家屋への侵入は防げててもシロアリの巣自体を根絶することはできません。セントリコン®システムはそうした問題を根本から解決。しかも人や環境への高い安全性を実現した画期的なシロアリ防除法です。シンケンはこのセントリコン®システムの施工資格を有する専門集団です。

シロアリ防除の資格を備えたシンケンスタッフが施工・管理を担当します。



Q シロアリの被害が心配ですが、防蟻剤散布による人やペットへの影響も心配です。この点、シンケンの住まいづくりではどのように考えていますか？

A 確かに防蟻剤の人や環境への影響は心配です。しかも従来の散布の仕方はシロアリが家屋に侵入しないようにバリアをつくる方法で、地中のシロアリの巣は温存され、防蟻剤のバリアに隙間ができると再び侵入するという不完全なものです。シンケンではダウケミカル社のセントリコン®システムというまったく新しいシロアリ防除法を採用しています。このシステムは世界中の住宅や病院、保育園など薬を撒けない施設で利用されている方法で、ホワイト

ハウスでも採用されています。セントリコン®システムで用いられる薬剤の有効成分はシロアリの脱皮を阻害する成分（キサフルムロン）で、昆虫など脱皮する生物のみに作用するため、人や哺乳類、鳥類などのペットには安心だといわれています。しかも薬剤は特殊な容器に納めて地面に埋め込まれますので、人やペットが薬剤に触れる可能性はほとんどありません。また使用済みの薬剤は資格を得たシンケンの専門技術者が責任をもって厳密に管理回収します。

あなたの家、そして 環境を守るために

環境にやさしいシロアリ防除工法 セントリコン*・システム

Sentricon*
Termite Colony
Elimination System

Winner
of the 2000
Presidential
Green Chemistry
Challenge
Award



セントリコン*・システム
米国最高峰の
2000年環境栄誉賞 受賞

セントリコン*・システムは、米国政府が制定する「環境に優しい科学」(Green chemistry)分野における最高の栄誉とされる2000年米国環境栄誉賞(Presidential Green Chemistry Challenge Award)を受賞しました。

これは同システムが環境低負荷・高機能型であり、また開発・製造からシステムの運用まで「環境に優しい科学」の考え方に基づいて行われていることを讃えたものです。

● 施工・問い合わせ
株式会社シンケン
TEL099-286-0088



シロアリ防除の新管理システム

セントリコン・システム



9784990079307

ISBN4-9900793-0-2



1920052009525

C0052 ¥952E

SINKEN STYLE
2001 Spring no.01

発売：
株式会社シンケン
〒890-0056
鹿児島市下新田4-49-22
TEL.099-286-0088
FAX.099-259-8088
<http://www.sinkenstyle.co.jp/>

頒布価格：
952円＋消費税

SINKEN
SINKEN COLTD.